

平成30年度

AP 採択事業報告書

2019年3月

岡山大学アドミッションセンター

大学改革推進事業「大学教育再生加速プログラム（入試改革）」の推進について

アドミッションセンター長

田 原 誠

岡山大学は、文部科学省「大学教育再生加速プログラム」の入試改革プロジェクトに採択されています。採択されたプロジェクトの目的は、これからの世界をリードする若者を育成する教育プログラムとして高く評価されている国際バカロレア（IB）教育について、国内での理解を深めること、さらに、国内大学における IB 教育修了生の受入拡大を図り、IB 校増加計画（200 校）に貢献することによって IB 入試実施大学の拠点校としての役割を果たすことです。IB ディプロマプログラム（DP）を修了した学生の受入拡大は、能力・意欲などを多面的・総合的に評価する大学入学者選抜制度の導入につながり、このことによって、高校と大学の教育が連携する一体的な改革を促すこととなります。

国内の IB 認定校は着実に増加してきており、また、DP 科目の一部を日本語で行う「日本語 DP 課程」が導入され、その実施校も増加しています。このため、本年度の IB 校への広報活動については、国内の IB 校に焦点を絞り、IB 校などが主催するカレッジ・フェアに参加することで、できるだけ多くの IB 校の関係者に接することとしました。

IB はエリート育成のための教育と評されることもありますが、北米では、経済困難地区の教育困難校に導入され、地域教育改善の成果をあげています。そこで、IB 教育を、公立学校を含めて広く普及させていく視点から、「教育に枠はないーIB for everyone」をテーマにシンポジウムを開催しました。講演者として、シカゴ市の低所得者学区に IB 教育を導入する施策を企画・運営してきた担当者やフロリダ州の移民住民の多い低所得者地区に導入された IB 校を調査した大学教員をお招きして討論を行いました。このシンポジウムは、岡山大学を会場に開催した日本国際バカロレア教育研究学会の前日に、また、学会の翌日は、TOK(Theory of Knowledge)についてのワークショップを開催し、IB Weekend 3days として多数の方の参加を促しました。TOK のワークショップは、シカゴ市の低所得者学区に導入された IB 校で TOK を担当した教員の知見、工夫、経験を共有していただきました。

IB 教育の調査・研究の面では、IB 教育がめざす学習者の像について、国内の Super Global High School における指導との共通性の調査を進めました。

調査・研究内容の報告については、全国入学者選抜研究連絡協議会、日本医学教育学会や日本国際バカロレア教育学会などで報告するとともに、教育関係の専門誌（International Journal of Multidisciplinary Academic Research）に投稿しました。

また、IB 入試の研修会として、IB 校認定に関わる確認訪問調査のコンサルタントを担当している方をお招きして、国際バカロレアの初歩から実践までの質疑応答セッションを開催しました。

昨年度から行っている「知の理論」のワークブックを材料としたワークショップは、今年度も引き続き、名古屋市と北九州市で開催しました。

以上のような活動は、我が国における IB 教育の普及と海外 IB 校への情報伝達に貢献できたものと考えております。

目 次

■ 岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会設置要項	1
■ 岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会設置要項	3
■ 平成30年度 岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会委員名簿	4
■ 平成30年度 岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会委員名簿	5
■ 国際バカロレア（IB）ワークショップへの参加	
● 国際バカロレア CAS ワークショップ（カテゴリ 1）	6
■ 国際バカロレア（IB）に関する研究報告等	
● 全国入学者選抜研究連絡協議会大会	
・岡山大学における国際バカロレア（IB）入試と修了生の受け入れについて	7
● 第50回日本医学教育学会大会	
・Comparing International Baccalaureate and Japanese High School Education	14
● 日本国際バカロレア教育学会第3回大会	
・Nurturing International Mindedness by increasing IB Admissions-A 6 year Experience at a National University	15
● International Baccalaureate Higher Education Forum : Japan 2018	
・IB DP Admissions at a National University in Japan	17
● 第8回アドミッションセンターセミナー	
・国際バカロレアの修了生の受入状況について	22
● 論文投稿	
・Efforts towards creating an International Baccalaureate student friendly Japanese National University	25
・Creating an International Baccalaureate Student-friendly National University in Japan	26
・Interpretation of IB learner profile characteristics among students in Japanese Super Global High Schools	33
● IB 修了生へのフォローアップ調査	38
■ 勉強会・講演会の開催	
● 「国際バカロレア校教員がお答えします！ —国際バカロレアの初歩から実践まで—質疑応答セッション」	39
● ワークショップ「低所得世帯の学生に TOK を教えることの意味」	41
● ワークショップ『「知の理論」をひもとく UNPACKING TOK」全2回	43
■ シンポジウムの開催	
「教育に枠はない - IB for everyone」	45
■ 平成30年度 IB 校訪問実績	
・IB 校訪問	58

岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会設置要項

平成27年1月28日

学 長 裁 定

（設置）

第1条 岡山大学（以下「本学」という。）が実施する文部科学省事業「大学教育再生加速プログラム（入試改革）」（以下「AP事業」という。）の円滑な実施及び運営のため、本学に、岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会（以下「AP運営委員会」という。）を置く。

（業務）

第2条 AP運営委員会は、国内における国際バカロレア（以下「IB」という。）教育への理解を促進し、IB入試を普及させ、及び本学がIB入試実施大学の拠点としての役割を果たすため、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 国内外のIB校に対する広報活動
- 二 IB教育に関する調査研究及び関係機関への情報提供
- 三 国内におけるIB入試の普及活動
- 四 本学における入試改善のための提言
- 五 その他AP事業の実施に関し必要な事項

（組織）

第3条 AP運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教育担当理事
- 二 アドミッションセンター（以下「センター」という。）長
- 三 副センター長
- 四 センターの教員
- 五 本学の教員のうちから教育担当理事が推薦する者 若干人
- 六 その他教育担当理事が必要と認めた者

2 前項第5号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第4条 互選により、委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、AP運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（議事）

第5条 AP運営委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することはできない。

2 AP 運営委員会の協議事項は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 AP 運営委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 AP 運営委員会の事務は、学務部入試課において処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、AP 運営委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、平成27年1月28日から施行し、平成26年12月1日から適用する。

2 この要項の施行後最初に任命される第3条第5号の委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会設置要項

平成27年1月28日

学 長 裁 定

(設置)

第1条 岡山大学（以下「本学」という。）が実施する文部科学省事業「大学教育再生加速プログラム（テーマⅢ入試改革）」（以下「AP事業」という。）の適正かつ有効な事業の遂行のため、本学に、岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(評価・助言)

第2条 委員会は、AP事業の活動及び成果に関し、学長からの求めに応じて、必要な評価、助言を行う。

(組織)

第3条 委員会は、AP事業に関連する有識者のうちから若干人で組織する。

2 委員の任期は1年とし、アドミッションセンター長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

3 委員は再任できる。

(委員長)

第4条 互選により、委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学務部入試課において処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、委員会に関し、必要な事項は別に定める。

附 則

1 この要項は、平成27年1月28日から施行する。

2 この要項の施行後最初に任命される委員の任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

平成30年度岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会委員名簿

所 属 等	職 名	氏 名	期 間	備 考
	教育担当 理事	サ ノ ヒロシ 佐 野 寛	H29. 4. 1～31. 3. 31	第3条第1項
アドミッションセンター長	入試改革 副学長	タ ハラ マコト 田 原 誠	H26. 12. 1～31. 3. 31	第3条第2項
アドミッションセンター	教授	タ ナカ カツ ミ 田 中 克 己	H26. 12. 1～31. 3. 31	第3条第3項
〃	教授	イイ ツカ マサ ヤ 飯 塚 誠 也	H26. 12. 1～31. 3. 31	第3条第4項
〃	准教授	ウエ ダ イチ ロウ 上 田 一 郎	H26. 12. 1～31. 3. 31	〃
〃	准教授	マ ハ ム ド サ ビ ナ MAHMOOD SABINA	H27. 11. 1～31. 3. 31	〃
〃	特任教授	サ タケ キョウ スケ 佐 竹 恭 介	H26. 12. 1～31. 3. 31	〃
理学部	教授	ウエ ダ ヒトシ 上 田 均	H29. 6. 14～31. 3. 31	第3条第5項
全学教育・ 学生支援機構	准教授	モリ オカ アケ ミ 森 岡 明 美	H29. 6. 12～31. 3. 31	第3条第5項
全学教育・ 学生支援機構	UAA	イシ イ イチ ロウ 石 井 一 郎	H29. 6. 9～31. 3. 31	第3条第5項
グローバル・パー トナース	教授	ウ ツカ マ リ コ 宇 塚 万 里 子	H30. 6. 1～31. 3. 31	第3条第5項
教育学部	教授	クワ バラ トシ ノリ 桑 原 敏 典	H30. 6. 7～32. 3. 31	第3条第5項

（全12名、敬称略、順不同）

平成30年度岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会委員名簿

所 属 等	職 名	氏 名	期 間	備 考
岡山県立岡山大安寺中等教育学校	校長	オキ ヅカ イク オ 起 塚 郁 夫	30. 5. 25 ～31. 3. 31	第3条第1項
株式会社 ベネッセコーポレーション	進研模試編集長	ウチ ヤマ キミ ヒロ 内 山 公 宏	30. 6. 15 ～31. 3. 31	〃
英数学館高等学校	校長	ナガ トメ サトシ 永 留 聡	30. 5. 31 ～31. 3. 31	〃
岡山県教育庁	高校教育課高校教育 課長	フジ オカ タカ ユキ 藤 岡 隆 幸	30. 5. 29 ～31. 3. 31	〃
国際バカロレア機構	国際バカロレア日本 大使	ツボヤ イクコ 坪谷ニューエル郁子	30. 5. 25 ～31. 3. 31	〃
清心女子大学	准教授	ファースト トーマス デビッド F A S T THOMAS DAVID	30. 5. 28 ～31. 3. 31	〃
岡山大学	教育担当 理事	サ ノ ヒロシ 佐 野 寛	30. 4. 1 ～31. 3. 31	〃
岡山大学アドミッションセン ター 長	入試改革担当 副学長	タ ハラ マコト 田 原 誠	30. 4. 1 ～31. 3. 31	〃

(全8名、敬称略、五十音順)

国際バカロレア CAS ワークショップ（カテゴリ 1）終了報告

期間：4 週間（オンライン）：平成 31 年 2 月 6 日～平成 31 年 3 月 6 日

参加者：アドミッションセンター准教授 MAHMOOD SABINA

1 週目：Module 1: CAS - the IB mission statement in action

- CAS: Every title counts glossary
- Not an impossible mission forum
- Standards and practices in your schools forum
- Learning by doing: A compilation space Glossary
- Learning by doing: your own experience forum
- CAS: What, Why and How Database
- OPTIONAL: CAS: Finding a student's element? forum

2 週目：Module 2: The stages of CAS experiences and how they are measured

- CAS Outcomes: Establishing Connections forum
- Examples of evidence forum
- Planning for CAS experiences assignment space
- Planning for a CAS experience forum
- To be, or not to be CAS Quiz
- Discussing CAS experiences forum

3 週目：Module 3: Reflections, projects and working with others

- A reflection on reflection. Image database
- Reflection in CAS forum
- Developing Reflectiveness forum
- CAS Project database
- Working with others forum

4 週目：Module 4: The CAS portfolio, developing and evaluating CAS, and connecting CAS with the curriculum

- CAS in our schools Glossary
- CAS procedures: Q&A forum
- CAS Portfolio Glossary
- Connecting CAS: Ideas bank Glossary



岡山大学における国際バカロレア入試と 修了生の受け入れについて

岡山大学 アドミッションセンター

目次

岡山大学

- 国際バカロレアについて
- 高大接続システム改革との関係
- 日本における取り組み
- 岡山大学の国際バカロレアについての取り組み
- グローバル・ディスカバリー・プログラム

岡山大学

国際バカロレアについて

国際バカロレアについて

岡山大学

国際バカロレア (IB: International Baccalaureate)
国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム

設立目的 (1968年設立本部ジュネーブ)

1. 総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのことに対応できる生徒を育成し、生涯に對し未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせる。
2. 国際的に適用する大学入学資格 (国際バカロレア資格: DP) を与え、大学進学へのルートを提供する。

認定校制度の下に

共通カリキュラムの作成、世界共通の国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施

IB教育のプログラム

岡山大学

- プライマリー・イヤーズ・プログラム (PYP) 【1,509校(国内: 22校)】
 - 3歳～12歳を対象、どのような言語でも提供可能、1997年設置。
- ミドル・イヤーズ・プログラム (MYP) 【1,398校(国内: 14校)】
 - 11歳～16歳を対象、どのような言語でも提供可能、1994年設置。
- ディプロマ・プログラム (DP) 【3,209校(国内: 33校)】
 - 16歳～19歳を対象、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格 (DP) を取得可能。原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施、1969年設置。
 - 2015年からは、日本語と英語によるデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムが開始。
- キャリア関連プログラム (CP) 【136校(国内: 校)】
 - 16～19歳を対象、キャリア教育・職業教育に関連したプログラム、2012年設置。

国際バカロレアプログラム

岡山大学

ディプロマ・プログラム

学習者を育成するための
「学習の方法」と教科学習
・評価基準に基づく達成度の内部評価
・内部評価の適正化 (外部評価)
・世界統一試験 (5月または11月)

ディプロマ資格 (最終審査)

6科目群: 各7点満点=42点
TOK / EE 3点満点=3点
CASは必修
45点満点中24点以上必要



国際バカロレア教育の理念



国際バカロレア (IB) の使命 (The IB mission)

国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する。探究心、知識、思いやり、意欲に富んだ若者の育成を目的としている。

IBの学習者像 (The IB Learner Profile)



探究する人
知識のある人
考える人
コミュニケーションができる人
信念をもつ人
心を開く人
思いやりのある人
挑戦する人
バランスのとれた人
振り返りができる人

1



高大接続システム改革との関係

2

新たな時代に向けての教育改革



大きな社会変動

グローバル化・多様化、新興国・地域の発展、産業・就業構造の転換、生産年齢人口の急減、地方創生への対応

先行き不透明な時代で重要とされる資質や能力

多様な人々と協力しながら
主体的に人生を切り開く力

道と人としての状況の中に
問題を発見し答えや新たな価値
を創造するための資質や能力

こうした資質や能力は、従来の知識・技能を基盤的に修得する教育では、十分に育成することはできない。

次代を担う若い世代、これからの時代を生きる全ての人が、こうした資質能力を育むことができるように抜本的な教育改革を進める必要がある。

この教育改革が成就できるかどうか我が国の運命を左右する！

高大接続システム改革会議最終報告（17年度第3回）12/18号

3

新たな時代に向けての教育改革



特に重視すべき学力の3要素

十分な知識・技能

答えが一つに定まらない問題に
自ら解を見いだしていく
思考力・判断力・表現力等の能力

主体性をもって多様な人々と協働
して学ぶ態度

学力の3要素の全てを一人一人の学習者が身に付け、予見困難な時代に、多様な人々と学び、働きながら、主体的に人生を切り開いていく力を育てる教育でなくてはならない！

高大接続システム改革会議最終報告（17年度第3回）12/18号

4

新たな時代に向けての教育改革まとめ



特に重視すべき学力の3要素

十分な知識・技能

答えが一つに定まらない問題に
自ら解を見いだしていく
思考力・判断力・表現力等の能力

主体性をもって多様な人々と
協働して学ぶ態度

十分な知識・技能の獲得

自主性・探究心
課題発見・解決能力：思考力・判
断力
表現力（コミュニケーション能力）

主体性（能動的学びへの転換）
異文化理解
協働して学ぶ態度

次代を担う若い世代に必要な学び

高大接続システム改革会議最終報告（17年度第3回）12/18号

5

新たな時代に向けての教育改革と国際バカロレア



IBの学習者像 (The IB Learner Profile)



探究する人
知識のある人
考える人
コミュニケーションができる人
信念をもつ人
心を開く人
思いやりのある人
挑戦する人
バランスのとれた人
振り返りができる人

次代を担う若い世代に必要な学び

十分な知識・技能の獲得

自主性・探究心
課題発見・解決能力：思考力・判
断力
表現力（コミュニケーション能力）

主体性（能動的学びへの転換）
異文化理解
協働して学ぶ態度

6

日本における取り組み

15

国際バカロレア—日本における取組み—

日本における取組み(2013年以降)

平成27年度

- ・18校での国際バカロレアコース導入のための指導
 - ・DP科目履修を高校卒業単位に算入する特例措置など
- ・教員確保のための措置
 - ・外国人教員特別免許
 - ・教員認定のためのワークショップ受講支援
- ・各種教科指導手引きなどの翻訳
- ・旧認定のための手引き作成
- ・大学入学者選抜への準制度導入

日本語DP(デュアル・ランゲージプログラム)導入
6科目中4科目まで日本語で受講可能

16

国際バカロレア認定校の増加

ディプロマ・プログラム(高校レベル)

平成25年6月(「日本再興戦略」策定時)

平成29年4月

2018年(平成30年)まで



17

岡山大学の国際バカロレアについての取組み

18

岡山大学の学部:11学部+1コース+1プログラム



19

30年度入試:さまざまな入試方法



20

岡山大学のIBへの取り組みの特徴



- 早い時期(平成20年度)からの取り組み
- 国際バカロレアの教育理念、教育内容・方法、学修評価を高く評価
 - 当初から筆記試験なしで合否判定
- 全学体制での取り組み
 - 全ての募集単位で受け入れ
- 全学組織*が一体となって、国際バカロレア教育を大学教育に生かす取り組みの推進
 - 旧のコア科目「知の理論」入門授業の教員教育へ導入
 - 高校・大学教育関係者を対象にした「知の理論」についてのワークショップの開催
 - *全学組織: 高等教育推進室、アドミッションセンター、教育開発センターなど
- 入学者の支援体制を整備

25

国際バカロレア入試導入の推移[1/2]



26

国際バカロレア入試導入の推移[2/2]



27

国際バカロレア入試の設計



入試のスケジュール
 北半球の海外旧校出身者(5月受験)
 8月募集は、国内の大学への進学のために帰国した旧GP修了者を対象に、4月入学生として募集
 南半球の旧校や一高校在籍生(11月受験予定者)
 10月募集として翌年1月の試験結果を基に書類審査(4月入学)
 5月の最終試験受験予定者の10月入学(グローバル・ディスカバリー・プログラムのみ)
 1月募集として5月試験の見込み点を基に審査する(条件付き合格)

4月入学(全学部)

最終試験の点数で合否判定
 8月募集(5月旧試験受験者、GP取得者)、10月募集(11月旧試験受験予定者、GP取得者)の2回実施

10月入学(GDPのみ)

最終試験の見込み点、最終試験の点数での合否判定
 10月入学: 1月募集(5月旧試験受験者、GP取得者)

28

国際バカロレア入試の設計 4月入学



29

国際バカロレア入試の設計 10月入学



30

国際バカロレア入試の設計



入試

書類審査のみ

文学部、法学部、経済学部、理学部、薬学部、工学部、環境理工学部、農学部、グローバル・ディスカバリープログラム

書類審査 ① 面接

教育学部、医学部(医学科、保健学科)、歯学部

※書類: 「成績評価証明書」、「自己推薦書」、「評価書」

履修指定科目と成績

出願を受理する学部・学科ごとに、入学後の履修に必要な知識や技能を考慮して、※教育課程での履修科目とその成績を指定

※教育の内容とディプロマ資格の学習成果の評価を包摂し、ディプロマ資格者も、原則として書類審査のみで受け入れ(出願可能)

最終試験の点数を出願の条件としているのは医学部医学科のみ(45点満点中39点)

2018年4月入学のIB入試の選抜方法



出願資格 (出願はインターネットによる出願のみ)

1. 国際バカロレア資格証明書(IBDP®)を2016年4月から2018年3月までに授与される者で、2018年3月31日までに18歳に達する者

2. 国際バカロレア資格取得において、次の①及び②に該当する者

① 言語Aを日本語により履修し、成績評価が4以上の者。

ただし、次の学部・学科・課程においては、以下の通りとする。

■教育学部、法学部、歯学部

日本語Aを日本語により履修し、成績評価が4以上又は、言語Bを日本語により履修し、HLで成績評価が6以上の者。

■グローバル・ディスカバリー・プログラム

言語Aを日本語により履修し、成績評価が4以上又は、言語Bを日本語により履修し、HLで成績評価6以上、又は、日本語能力試験(JLPT)N1に合格した者、又はこれと同等以上の日本語能力を有する者。

② 本学の指定する科目を履修し、必要な成績評価を修めた者。

2018年10月入学のIB入試の選抜方法



出願資格 (出願はインターネットによる出願のみ)

1. 国際バカロレア資格証明書(第147・147)を2016年10月から2018年9月までに授与される者で、2018年9月30日までに18歳に達する者

2. 国際バカロレア資格取得において、グループ1-6から1科目を上級レベル(Higher Level)により履修し、成績評価4以上の者

※参考:

4月入学では

■グローバル・ディスカバリー・プログラム

言語Aを日本語により履修し、成績評価が4以上又は、言語Bを日本語により履修し、HLで成績評価6以上、又は、日本語能力試験(JLPT)N1に合格した者、又はこれと同等以上の日本語能力を有する者。

各募集単位の指定科目 [1/3]



学部・学科・専攻等	募集人員	指定する科目
文学部	人文学科	若千人 日本語A(HL4以上)
		1科目HL4以上
教育学部	学級教育教員養成課程	若千人 グループ6以外から1科目HL4以上
	養護教諭養成課程	若千人 英語HL4以上 グループ3から1科目HL4以上
法学部	法学科(昼間コース)	若千人 グループ3から1科目HL4以上または数学HL4以上
経済学部	経済学科(昼間コース)	若千人 3人+2人 (1人募集+10人募集)
医学部	医学科	物理、化学、生物から2科目および数学(うち1科目はHL4以上、他の2科目はSL5以上かつHL2以上)であり45点満点中39点以上

各募集単位の指定科目 [2/3]



学部・学科・専攻等	募集人員	指定する科目
理学部	数学科	数学(HL4以上)
	物理学科	数学、物理から1科目(HL4以上)
	化学科	数学、物理、化学から1科目(HL4以上)
	生物学科	数学、物理、化学、生物から1科目(HL4以上)
	地球科学科	物理、化学から1科目(HL4以上)
医学部	保健学科	物理、化学、生物から1科目(HL4以上)を履修し、成績評価は問わない
	放射線技術科学	数学(HL4以上)及び物理(HL4以上またはSL4以上)
	臨床技術科学	数学(HL4以上)
工学部	機械システム系学科	数学(HL4以上)及び物理(HL4以上またはSL4以上)
	電気通信系学科	数学(HL4以上)
	情報系学科	数学(HL4以上)及び数学(HL4以上またはSL4以上)
	化学生命系学科	化学(HL4以上)及び数学(HL4以上またはSL4以上)

各募集単位の指定科目 [3/3]



学部・学科・専攻等	募集人員	指定する科目
環境工学部	環境数理工学	数学(HL成績評価4以上)
	環境デザイン工学	物理、化学から1科目及び数学1科目(どちらか1科目はHL4以上、もう一方はSL5以上又はHL(成績評価は問わない))
	環境管理工学	物理、化学、生物から1科目及び数学(どちらか1科目はHL4以上、もう一方はSL4以上又はHL(成績評価は問わない))
	環境物質工学	数学(SL4以上又はHL(成績評価は問わない))及び物理や化学のどちらかHL4以上
農学部	総合農業科学科	物理、化学、生物から1科目及び数学(どちらか一方の科目はHL4以上、もう一方の科目はSL5以上又はHLで履修(成績評価は問わない))
グローバル・ディスカバリー・プログラム	若千人	グループ6(昼間)以外から1科目(HL4以上)

国際バカロレア入試志願者と入学者の推移

 青岛大学

4月入学

年度	2012年	13年	14年	15年	16年	17年	合計
志願者数	1	1	2	9	13	17	43
合格者数	1	1	2	6	11	16	37
入学者数	1	0	0	2	5	7	15

10月入学(MPコース、グローバル・ディスカバリー・プログラム:GDP)

年度	2013年	14年	15年	16年	17年	合計
志願者数	3	6	6	4	(4)	19+(4)
合格者数	3	5	6	4	(3)	18+(3)
入学者数	1	3	3	0	(0)	7+(0)

2017年からGDP

48

国際バカロレア入試による本学在学生数

 清华大学

入試年度	入学学部・コース
2012年4月	1人(MPコース)
2013年10月	1人(MPコース)
2014年10月	1人(MPコース)
2015年4月	1人(医学部医学科), 1人(医学部保健学科) 2人(MPコース)
2016年4月	1人(医学部保健学科), 1人(工学部) 1人(環境理工学部), 2人(MPコース)
2017年4月	1人(文), 2人(教育), 2人(医学部医学科), 2人(MPコース)
在学生数	20人 男子学生:10人;女子学生:10人

国内旧校から

11人
医学部医学科、医学部保健学科、工学部、環境理工学部、MP
コース

名古屋・静岡・群馬・広島・福岡

海外IB校から

9人
医学部医学科、医学部保健学科、MPコース

シンガポール:ドイツ:ドバイ:オランダ

34

国際バカロレア修了生受入れ体制

 广东工业大学

国際バカロレア修了生への期待

基礎学力に加え、語学力、コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化に対する理解などの能力を備えており、**本学におけるグローバル人材の中心的役割を**果たす人材として期待される。

IB教育:論理的思考力、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力、異文化理解などの獲得

20

国際バカロレア修了生受入れ体制

 广东工业大学

受入体制整備の必要性

海外の高校などで、日本の高校とは異なる教育環境にあった留学生を本学の教育課程にスムーズに受け入れるためには配慮が必要。
受入者数は国立大学の中では多く、他大学に先進事例を示す。
様々な学部への入学者があり、学部横断的な受入体制が必要。

国際バカロレア修了生の活動支援

アドミッションセンターに教員(旧アドバイザー)を配属
(活動)
入学支援
コミュニケーショングループ運営: SNS: 旧同大 LINEグループ
学生セミナー支援(英語セミナー)
受け入れ学部(指導教員)との面談

24

グローバル・ディスカバリー・プログラム

岡山大学

[illegible]

アドミッションポリシー

岡山大学

● 教育内容・特色

- グループ・ディスカッション・プログラムでは、世界各地から来た学生・派遣生、日本人の高校出校生など、多様な背景を持つ学生同士の価値観と意見の衝突を経験させ、インターナショナル・リーダーとしての役割のあり方を模索し、学習者の能力の向上を図る。授業の成果はこうした目標達成によって専門知識の習得、忍耐強いコミュニケーション態度の育成を通じて達成される。見直し、文部科学省の異なる視点と協力により、課題解決に向けて明確に行動できる者を目指す。
- 学生生活の総括として履修プログラムを通じて、専門的な知識・技能の修得と、卒業研究では、自身の研究の向上を図るに際しての能力の向上で、収束した価値観を多面的・創造的に分析すると、社会に対しての積極的な価値観を表現できる。これらの教育を通じて、地球規模に地球規模に責任を負う社会のメンバーとしてのために貢献できる者、グローバル社会の持続可能な発展に貢献できる人材を育成する。

● 求める人材

- 多様な文化や社会に目を向け、世界を舞台に活躍する意欲を持つ人
- 幅広い分野での学術や言語の修得など、主体的な学びに積極的な人
- 他者と十分なコミュニケーションを図ることができ、互いに協力しながら課題に取り組む姿勢を持つ人

GDPの入試



GDP国際入試 30人
2017年度は3期に分けて実施
主に10月入学
英語能力が必要

国際バカロレア入試 若干人
4月入学
カリキュラムの関係上、英語能力
に加入日本語能力が必要
10月入学
英語能力が必要

ディスカバリー入試 30人
実績評価型
一般型
2日間にまたがり多面的な評価を
する入試
日本語能力が必要

20

ディスカバリー入試(実績評価型:募集人員5人)の試験内容



対象となる実績や体験

- ・人文社会や自然科学に関する研究や英語運用能力を競う全国大会等での実績
- ・海外でのフィールドワークや研修など、選考を経て参加した海外での活動体験
- ・世界各国の高校生が集まって開かれた国際会議・国際大会への参加
- ・海外の中等教育学校での6ヶ月以上の修学経験
- ・その他、上記に準ずる実績等

審判審査による第一次選抜を合格した人に対し、個人面接による第二次選抜を実施

審判審査で不合格となった人は、一般型へ

21

ディスカバリー入試(一般型:募集人員25人)の試験内容



重視される能力

- 英語を含めた基礎学力
- 学修に対する目的意識
- 学習意欲
- 課題に対する理解力
- 論理的思考力
- 表現力
- コミュニケーション力

このプログラムでの勉学に必要な
英語を含めた基礎学力のほか、学修に対する目的意識、学習意欲、課題に対する理解力、
論理的思考力、表現力、コミュニケーション力を発揮して選抜する入試

22

ご清聴ありがとうございました。



23

Comparing International Baccalaureate and Japanese High School Education

Mahmood Sabina *, Satake Kyousuke, Iizuka Masaya, Tanaka Katsumi, Ueda Ichiro, Ishii Ichiro, Tahara Makoto

Okayama University, Admission Center, 2-1-1, Tsushima Naka, Kita Ku, Okayama 700-8530, Japan Tel: +81-86-251-7284; Fax: +81-86-251-7197

Abstract

The International Baccalaureate Diploma (IBDP) is equivalent to a high school qualification. Presently there are 26 IBDP students at Okayama University of whom 5 belong to the Medical Faculty and additional 6 are joining in April 2018. Following feedback from IB students and Academic Advisors regarding difficulties in taking classes at University, a study was designed to observe an equal number of lessons at both IB schools (IBS) and Japanese High schools (JHS) in grades 10-12, to compare teaching methods and ways of student learning. Biology classes were observed in 5 Japanese High Schools in Okayama Prefecture and 5 IB Schools around Japan. The biggest difference observed, was the class size; (37-40) at JHS versus (2-16) at IBS, which provided more opportunity for discussions and interactions between the teacher and students at IBS. The next difference was cultural. At IBS, students were encouraged to voice their opinion freely and actively engage in class, whereas at JHS, classes were lecture oriented and the Japanese culture of listening more, expressing less and speaking when spoken to, was very prominent. Lastly, IBS prepares students for admission into Universities worldwide whereas, the JHS education system is targeted at scoring high on the entrance exam to enter Japanese Universities. So students are assessed mostly on their academic skills rather than other skills. In JHS, the teacher has the responsibility to provide tailor-made lessons, whereas at IBS, the responsibility lies mainly on the student while the teacher acts as a guide and resource for students to explore.

Title

Nurturing International Mindedness by increasing IB Admissions: A 6-year Experience at a National University

Abstract

Okayama University is a National University in Japan which recognizes the IB Diploma and accepts IB students without imposing admission tests, since 2012. This talk will focus on the positive experiences of hosting IB students, highlighting IB student voices, experiences of IB academic advisors and University Admission officers, in initiating international mindedness among other students and faculty. The majority of IB students presently enrolled at Okayama University include many Japanese Nationals, who have brought with them a mindset to think beyond Japanese cultural norms and be more open to cultural diversity. These students have shown that it is not the person's nationality or mother tongue that makes him or her more international minded but their education. IB education appears to have influenced their take on any issue with a more worldly approach. IB students tend to create a learning environment and encourage other students to form a community of learners. They also value the experience of others. This new trend of learners has influenced the University's decision to increase IB admissions, so that IB students can build a career in Japan and also internationalize the Japanese society by encouraging local students to think globally from their own home ground.

Session Goal

The ultimate goal of this session is to share the positive experiences of hosting internationally minded IB students and encouraging the development of a more proactive and smooth transition of IB Diploma students into Japanese Higher Education. This session will highlight IB student voices, experiences of IB academic advisors and University Admission officers, at a Japanese National University.

Presenter Biography

Dr. Sabina Mahmood did her PhD. from Okayama University Medical School. Presently, she is an Associate Prof. at the Admission Center (IB admissions) and teaches at Okayama University Medical School. She is also the IB advisor for all IB students studying at Okayama University. Her journey at Okayama University began as a foreign student and continued as a professional educator. As a faculty member involved in Global Admissions, and through interactions with IB students, parents and IB school advisors, she has gathered knowledge and experience to establish an IB friendly, international minded University environment in Japan.

IB DP Admissions at a National University in Japan

Sabina Mahmood*, MD., PhD
Associate Professor & IB Advisor
Okayama University, IB Admissions,
Okayama, Japan

IB Higher Education Forum, September 13th 2018

1

OKAYAMA UNIVERSITY



Acclaimed National University
in Japan, dating back to 1870

2

Location: Okayama in West Japan

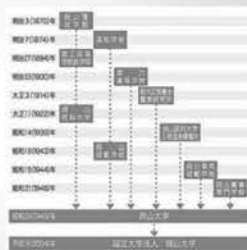


3

History & Overview

National University with 11 Faculties · 1 Program · 8 Graduate Schools

- 150 years of long history
- Covers almost all specialties
- Lectures by experts in a wide range of fields
- 3 Research Institutes · Affiliated Hospital · Affiliated School
- 1 teacher for every 9 students
- Undergraduate students : 10,157
- Post graduate students : 2,968
- Faculty : 1,471
- Staff : 2,445
- Total : 17,067 (Approx.)



4

Faculty of Letters <ul style="list-style-type: none"> 文学部 国文学科 日本文学科 英語文学科 英語学専攻 英語学専攻 英語学専攻 英語学専攻 英語学専攻 	Faculty of Education <ul style="list-style-type: none"> 教育学部 教育学部 教育学部 教育学部 教育学部 教育学部 教育学部 教育学部 教育学部 	Faculty of Law <ul style="list-style-type: none"> 法学部 法学部 法学部 法学部 法学部 法学部 法学部 法学部 法学部 	Faculty of Economics <ul style="list-style-type: none"> 経済学部 経済学部 経済学部 経済学部 経済学部 経済学部 経済学部 経済学部 経済学部
Faculty of Science <ul style="list-style-type: none"> 理学部 理学部 理学部 理学部 理学部 理学部 理学部 理学部 理学部 	Medical School <ul style="list-style-type: none"> 医学部 医学部 医学部 医学部 医学部 医学部 医学部 医学部 医学部 	Dental School <ul style="list-style-type: none"> 歯学部 歯学部 歯学部 歯学部 歯学部 歯学部 歯学部 歯学部 歯学部 	Faculty of Pharmaceutical Sciences <ul style="list-style-type: none"> 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部
Faculty of Engineering <ul style="list-style-type: none"> 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 	Faculty of Environmental Science and Technology <ul style="list-style-type: none"> 環境学部 環境学部 環境学部 環境学部 環境学部 環境学部 環境学部 環境学部 環境学部 	Faculty of Agriculture <ul style="list-style-type: none"> 農学部 農学部 農学部 農学部 農学部 農学部 農学部 農学部 農学部 	Graduate School <ul style="list-style-type: none"> 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院

5

Various Entrance Exams – 2019 Entrance Exam



6

IB Admissions



2019年度入試

岡山大学



7

Okayama University Initiatives towards IB Admissions

1. We started as early as 2012
2. We do not impose any kind of admission tests.
3. We recognize the IB diploma as the only qualification to apply for admission
4. We are developing a strong support system for IB students
5. We are continuously making efforts to promote and incorporate the IB way of education into University education

・Introduction of TOK introductory lessons to liberal arts education
・Arranging "TOK" workshops targeting high school and university educators

Our efforts and initiatives have been appreciated and published recently in the Asahi News Paper "朝日新聞のGLOBE" on June 30th, 2018

8

Transition of IB Admissions at Okayama University

Admission Year	Faculties with April Admissions	Faculties with October Admission
2012	4 Faculties (Science, Health Science, Engineering, Agriculture), MP course	
2013	4 Faculties (Science, Health Science, Engineering, Agriculture), MP course	MP Course
2014	5 Faculties (Science, Health Science, Engineering, Environmental Science and Technology, Agriculture), MP Course	MP Course
2015	All 11 Faculties, MP Course (Letters, Education, Law, Economics, Science, Medicine, Health Sciences, Dental School, Pharmaceutical Sciences, Engineering, Environmental Science and Technology, Agriculture and MP Course)	MP Course (Admissions closed in April, 2017)
2017		Discovery Program for Global Learners

9

IB Applications and Admissions at Okayama University (2012~2018)

April Admissions

Year	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	Total
No. of Applicants	1	1	2	9	13	17	28	71
No. of Successful Applicants	1	1	2	6	11	16	-	37
No. of Applicants Enrolled	1	0	0	2	5	7	-	15

October Admissions

Year	2013	2014	2015	2016	2017	2018	Total
No. of Applicants	3	6	6	4	4(14)	-	23(14)
No. of Successful Applicants	3	5	6	4	3(9)	-	21(9)
No. of Applicants Enrolled	1	3	3	0	0(0)	-	7(6)

10

IB Admissions (April-2019)

August Recruitment

IB Diploma Graduates until May 2018, IB Diploma Examinees mainly

Application Period	August 2018
Recruiting Faculties	Faculty of Letters, Economics, Science, Medicine, Pharmaceutical Sciences, Dental School, Engineering, Environmental Science and Technology
No. of Openings	Faculty of Medicine: 3 ; Other Faculties: Several

October Recruitment

IB Diploma Graduates , IB Diploma examinees of November, 2018 mainly

Application Period	October 2018
Recruiting Faculties	Faculty of Letters, Education, Law, Economics, Science, Medicine and Health Sciences, Pharmaceutical Sciences, Dental School, Engineering, Environmental Science and Technology, Agriculture and Discovery Program for Global Learners (2020 final IB Admission)
No. of openings	Faculty of Medicine: 2 ; Other Faculties: Several

11

IB Admission at Okayama University

- Application documents only
 - Faculty of Letters, Law, Economics, Science, Pharmaceutical Sciences, Engineering, Environmental Science and Technology, Agriculture, MP Course
- Application documents + Interview
 - Faculty of education, Faculty of Medicine and Health Sciences, Dental School

- Application documents:
 - IB (predicted) grades, personal essay, letter of recommendation
- Supplementary conditions:
 - Language A (Japanese), score of 4 or above
 - Language B (Japanese), score of 6 or above (Faculty of Education, Faculty of Medicine and Health Sciences, Dental School)
 - There are designated subjects for each faculty and department.
- Number of openings:
 - Medical School (Faculty of Medicine)- 5
 - All the other faculties- several

12

Faculty/ Department/Major designated subjects (1)

Faculty/Department/Major	Openings	Designated subjects
Faculty of Sciences	Several	Mathematics (HL, over 4 points) Mathematics or Physics (HL, over 4 points) Mathematics or Physics or Chemistry (HL, over 4 points) Mathematics or Physics or Chemistry or Biology (HL, over 4 points) Physics, Chemistry (HL, over 4 points)
Medical School	Several	Physics or Chemistry or Biology (HL or SL, no designated score)
Faculty of Engineering	Several	Mathematics (HL, over 4 points) or Physics (HL or SL, over 4 points) Mathematics (HL, over 4 points) Chemistry (HL, over 4 points) or Mathematics (HL or SL over 4 points)

13

Faculty/ Department/Major designated subjects (2)

Faculty/Department/Major	Openings	Designated subjects
Faculty of Environmental Science and Technology	Several	Mathematics (HL, over 4 points) Mathematics and 1 subject (Physics, Chemistry) - one subject HL over 4 points; other subject SL over 5 points or HL Mathematics and 1 subject (Physics, Chemistry, Biology) - one subject HL over 4 points; other subject SL over 4 points or HL Mathematics (SL over 4 points or HL) Physics or Chemistry (HL over 4 points)
Faculty of Agriculture	Several	Two subjects (HL or SL): Physics, Chemistry, Biology
Swimming Program Course	Several	1 subject from groups 1~5 (HL, over 4 points)

14

Faculty/ Department/Major designated subjects (3)

Faculty/Department/Major	Openings	Designated subjects
Faculty of Letters	Several	Japanese A (HL, over 4 points)
Faculty of Education	Several	1 subject, HL over 4 points
Faculty of Law	Several	1 subject from groups 1~5 (HL, over 4 points) English (HL, over 4 points) 1 subject from group 3, HL or SL over 4 points
Faculty of Economics	Several	1 subject from group 3 (HL, over 4 points) or Mathematics (HL, over 4 points)
Medical School	5	2 subjects (Biology, Physics, Chemistry) + Mathematics - one subject HL over 4 points; other 2 subjects SL over 5 points or HL over 3 points
Faculty of Pharmaceutical Sciences	Several	1 subject (Physics, Biology) + Mathematics + Chemistry - one subject HL over 4 points; other 2 subjects SL over 5 points or HL over 3 points

15

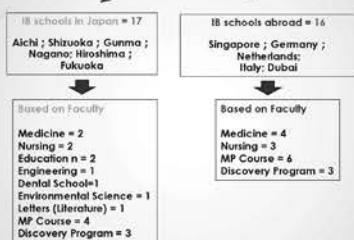
IB Admission Student Limitations (2019 fiscal year)

From 2019, Medical School will take 5 students and 8 other faculties will take 23 students

学部・学科・課程・専攻等	4年次生		計
	募集人員	IB募集	
文学部	人文学科	23	—
教育学部	学校教育専攻	—	23
法学部	法学科	—	23
経済学部	経済学科	—	23
理学部	理学科	—	23
工学部	工学科	—	23
医学部	医学科	—	23
薬学部	薬学科	—	23
歯学部	歯学科	—	23
看護学部	看護学科	—	23
体育学部	体育科	—	23
芸術学部	芸術科	—	23
国際学部	国際学科	—	23
環境学部	環境学科	—	23
情報学部	情報学科	—	23
健康学部	健康学科	—	23
総合学部	総合学科	—	23
計			23

16

No. of IB students enrolled 2012. April~2018. April : 33 (M : 13 ; F : 20)



17

Impressive aspects of IB students

1. Bright, cheerful, optimistic.
2. Fluent in English
3. Good communication and presentation skills
4. Good team players
5. Empathetic
6. Loves taking challenges

18

Initial Difficulties faced by IB students

- ▶ Lecture based classes with no discussions
- ▶ Concentrating in big classrooms with many students
- ▶ Writing reports in Japanese
- ▶ Understanding technical terms in Japanese
- ▶ Not allowed to use an electronic dictionary
- ▶ Lack of communication and discussion with teacher
- ▶ Club activities are too stressful

19

IB Student reasons for choosing Okayama University

1. Does not require the National Center Test
2. Recognizes the IB diploma without imposing any other tests
3. Can apply to most faculties with documents only
4. Offers Spring and Fall admissions
5. Can apply to all faculties with an IB score of 24*
6. National University with low tuition fees; global image
7. Overall cost of living in Okayama is cheap
8. Near to my/parents hometown
9. Strongly recommended by IB student Advisors/ Parents
10. Many opportunities to study abroad

*Except the 6-year Medical School Course which requires an IB Diploma Score of 39

20

How do we interact with our IB students?

One-on-one interviews

SNS: IB LINE Message group

Medical English Group/ PBL group

Nursing English Group



21

Survey on IB Admission

Survey Method:

20 College Counselors from International Schools and First Article schools in Japan, were asked to fill out a survey anonymously with the following questions.

- a) What are your expectations of Japanese National Universities?
- b) What are some disappointing aspects of Admission policies at Japanese National Universities?
- c) What are your suggestions for improving the existing Admission policies?
- d) What are the reasons behind IB students choosing Foreign Universities over Japanese Universities?
- e) What are the reasons behind IB students choosing Private Universities over National Universities in Japan?

22

Results of Survey

1. Lack of understanding of the IB education system.
2. Unrealistic expectations of IB students
3. Unfamiliarity with overseas admission policies with regard to age at admission, language requirements, IB credit transfers.
4. Not recognizing the IB Diploma and imposing admission tests.
5. Japanese Private Universities providing offers similar to overseas Universities are given priority over Japanese National Universities, irrespective of the high costs involved.

23

Conclusion from Survey Results

1. Multiple approaches are necessary by Japanese Universities to accommodate IB students.
2. Balancing the needs of IB students with the expectations of University teachers is very important.
3. Further surveys and interviews depicting a realistic picture are necessary in order to create an IB friendly Japanese University

24

IB education is the path to International Mindedness

Okayama University Initiatives to nurture International Mindedness



25



Thank you for your attention!

26

第8回アドミッションセンターセミナー

国際バカロレアの修了生の受け入れ状況について

マハムド サビナ

岡山大学アドミッションセンター

H30.10.03

1

国際バカロレア入試導入の推移

入試年度	4月入学者入試	10月入学者入試
2012	4学部(理、医、保、工、農)、 MP(マッチングプログラム)コース	
2013	4学部(理、医、保、工、農)、 MPコース	MPコース
2014	5学部(理、医、保、工、農、環境理工)、 MPコース	MPコース
2015	全11学部、MPコース	MPコース
2017	全11学部、GDP	グローバル・ディスカバリー・プログラム(GDP)

*MPコースはグローバル・ディスカバリー・プログラムに発展的に解消。

1

岡山大学の国際バカロレア取り組みの特徴

1. 早い時期（平成20年度）から取り組んでいる。
2. 国際バカロレアの教育理念、教育内容・方法、学修評価を高く評価している。＝当初から筆記試験なしで入学を認めている。
3. 全学体制で取り組んでいる（全ての募集単位で受け入れ）。
4. 全学組織が一体となって、国際バカロレアを大学教育に生かす／取り組みを進めている。

- ・IBのコア科目「知の理論」入門授業の教養教育への導入。
- ・高校・大学教育関係者を対象にした「知の理論」についてのワークショップの開催。

岡山大学の国際バカロレアの取り組みが、朝日新聞の“GLOBE+”に取り上げられました（2018年6月30日）。

2

国際バカロレア入試募集人員（2019年度）

2019年度から、
医学部医学科（5名）
以外に8学部23人を
定員化

[illegible]

国際バカロレア志願者と入学者の推移

4月入学

年度	2012年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	合計
志願者数	1	1	2	9	13	17	28	71
合格者数	1	1	2	6	11	16	17	54
入学者数	1	0	0	2	5	7	7	22

10月入学

年度	2013年	14年	15年	16年	17年	18年	合計
志願者数	3	6	6	4	4(14)	3	23(14)
合格者数	3	5	6	4	3(9)	2	21(9)
入学者数	1	3	3	0	0(0)	-	7(0)

- 10月入学は、2016年まではマッチングプログラム、2017年以降はグローバル・ディスカバリー・プログラム（GDP）
- 10月入学の「 γ 」内の数は、GDPの国際入試への志願者のうちの18修了生の数で外数。
- 「 γ 」は、入学手続きがまだ行われていないことを示す。

1

国際バカロレア在学生の内訳

在学生数計：33人

国内IB校から： 17人
名古屋；静岡；群馬；広島；
福岡

海外IB校から： 16人
シンガポール；ドイツ
ランダ

在学中の学部

教育学部：2人
文学部：1人
医学部医学科：2人
医学部保健学科：2人
歯学部：1人
工学部：1人
環境理工学部：1人
MPコース：4人
ディスカバリー：3人

医学部医学科：4人
医学部保健学科：3人
MPコース：6人
ディスカバリー：3人

1

国際バカロレア修了生の受入と活動支援 ・アドミッションセンターに教員（IBアドバイザー）を配置

- （活動）
- ・個人面談
 - ・コミュニケーショングループ運営：S N S：IB岡大 LINEグループ
 - ・学生セミナー支援（医学英語セミナー，看護英語セミナー）
 - ・受け入れ学部（指導教員）との面談

7



朝日新聞"GLOBE+"記事

グローバル教育

- 国立大初のバカロレア入試は岡山大学
狙いは「コミュニケーション力」



出典：<https://globe.asahi.com/article/11646383>

9

日本国際バカロレア教育学会 第3回大会 In 岡山に参加

公開シンポジウム参加

一般演題：発表

一般演題：発表

10

IBの学生の印象的な側面

1. 明るい、陽気な、楽観的な性格
2. 英語が上手
3. 高いコミュニケーション能力とプレゼンテーションスキルがある
4. チームワークが上手
5. やさしい
6. チャレンジが好き

11

入学後のハードル

- ▶ 講義方授業が分かりにくい
- ▶ 大勢な生徒がいる為授業に集中できない
- ▶ 日本語でレポート書くのが大変
- ▶ 日本語の専門用語が難しい
- ▶ 授業中先生とディスカッションするチャンスがない
部活は大きなストレスな原因
- ▶ 英語の授業が簡単すぎる
- ▶ 外国語の授業も簡単すぎる
- ▶ 能動的学習の授業はあまり無い

12

I B 終了生と日本の高校生の教育の違い

13

クラス	IB校	日本の高校
クラスの生徒数	2-16人	37-40人
場所	教室/室外	教室(ラボ)
授業	ディスカッション方	講義方
教材	ラップトップ	教科書/ワークシート
教室の雰囲気	カジュアル・飲食ok	非常にアカデミックな
複合クラス	HLとSLを組み合わせた授業有	無し

14

生徒	IB校	日本の高校
授業参加	全員話す	質問に答える
振り替え	意見を自由に伝える	ワークシートを通じて
質問する	授業中よくする	生徒は質問しない
授業の準備	予め生徒はテーマに関する情報を調べる	生徒は教科書・先生はワークシートと
生徒準備	完璧	出席と集中力

15

在学中IB生の声: 岡山大学を選んだ理由

1. センター試験を受けなくて良い。
2. IBディプロマが認められてる; 他の二次試験の必要が無い
3. 書類検査で出願できる学部がほとんど
4. 春と秋入学がある
5. IBスコア24点で出願できる(医学医学科を除く)
6. 国立大学; 授業料が安い; グローバルイメージがある
7. 岡山の物価がやすい; 岡山は住みやすい
8. 実家に近い
9. IB校のHigh Schoolアドバイザーの先生や両親に進められた
10. 留学のチャンスが沢山ある

*医学医学科のみ: IBスコアが39点以上必要

16

I B 終了生受け入れに関するこれから岡山大学のミッション



17



ご清聴
ありがとうございました。

18

Efforts towards creating an International Baccalaureate student friendly Japanese National University

Background: The International Baccalaureate (IB) Diploma program is a standardized international curriculum equivalent to a third year high school qualification. The number of IB students applying to Japanese Universities is increasing every year. Okayama University is a Super Global National University which recognizes the IB diploma (IBDP) and has been admitting IB students into the undergraduate course without imposing any admission tests, since 2012. As of October 2017, 26 IBDP students from IB schools in Japan and abroad, have enrolled in 11 faculties and one special course. Okayama University has not only been a pioneer in IB admissions but has a solid IB student support system and is also taking great initiatives to create IB awareness, through IB research and faculty education. Previously, two research papers on IB student voices about University life and IB student Academic Advisor interviews on IB student academic life and adjustments following admission, have already been published. This research is the last step in summarizing opinions and suggestions of IB college counselors with regard to IB admissions, with the hope of creating a more IB friendly Japanese University based on IB student needs. **Method:** Twenty college counselors from International Schools and First Article schools in Japan, were asked to fill out a survey anonymously, with regard to the following questions. a) What are your expectations of Japanese National Universities? b) What are some disappointing aspects of Admission policies at Japanese National Universities? c) What are your suggestions for improving the existing Admission policies? d) What are the reasons behind IB students choosing Foreign Universities over Japanese Universities? e) What are the reasons behind IB students choosing Private Universities over National Universities in Japan? **Results of Survey:** Lack of understanding of the IB education system leading to unrealistic expectations of IB students, was a major concern among all college counselors. Next, unfamiliarity with overseas admission policies with regard to age at admission, language requirements, IB credit transfers and subsequent recognition of the IB Diploma were also reasons why IB students opted for foreign Universities over Japanese Universities. Finally, Japanese Private Universities which try to provide offers similar to overseas Universities are given priority over Japanese National Universities by many IB students and parents, irrespective of the high costs involved. **Conclusion:** Multiple approaches are necessary by Japanese Universities to accommodate and welcome IB students, who come from a very international educational background which is quite different from Japanese High School education. Balancing the needs of IB students with the expectations of University teachers who are eager to admit IB students for the Internationalization of Japanese Universities, can only be achieved through surveys and interviews which convey a realistic picture of what actions need to be taken create an IB friendly Japanese University. **Keywords:** Japanese Higher Education, International Baccalaureate, Internationalization of Japanese Universities

Creating an International Baccalaureate Student-friendly National University in Japan

Mahmood Sabina

Dept. of Academic Affairs, Admission Center,
Okayama University, Okayama, Japan

Satake Kyosuke

Admission Center,
Okayama University, Okayama, Japan

Iizuka Masaya

Admission Center,
Okayama University, Okayama, Japan

Tanaka Katsumi

Admission Center,
Okayama University, Okayama, Japan

Ueda Ichiro

Admission Center,
Okayama University, Okayama, Japan

Ishii Ichiro

Admission Center,
Okayama University, Okayama, Japan

Tahara Makoto

Admission Center,
Okayama University, Okayama, Japan

The number of International Baccalaureate (IB) students applying to Japanese Universities is increasing. Okayama University is a Super Global Japanese National University which started IB admissions since 2012 and presently, has 36 IB students in 11 faculties and 1 special program. Through IB student support, IB research and conducting surveys, Okayama University is aiming to become an IB friendly University. Twenty college counselors from International Schools and First Article schools in Japan, filled out a survey anonymously, regarding the following topics; expectations of Japanese National Universities; disappointing aspects of Japanese National University Admission policies; suggestions to improve existing admission policies; reasons behind IB students choosing Foreign Universities over Japanese Universities or choosing Private Universities over National Universities, respectively. Lack of understanding of the IB education system, leading to unrealistic expectations of IB students, was a major concern among all college counselors. Unfamiliarity with overseas admission policies regarding age at admission, language requirements, IB credit transfers and recognition of the IB Diploma, led IB students to opt for foreign Universities. Finally, Japanese Private Universities with admission policies similar to overseas Universities, offering a wide range of study options, are prioritized over National Universities, irrespective of high tuition fees. Multiple approaches are necessary to become an IB-friendly University. A clear understanding of the IB education system which is very different from Japanese High School education, is essential. Okayama University is making every effort towards balancing the needs of IB students with the expectations of Japanese University teachers to become more IB friendly.

Key words: International Baccalaureate, Japanese National University, Admission Policies

INTRODUCTION

The International Baccalaureate Organization (IBO) is a non-profit organization which was established in Geneva, Switzerland in 1968, and which introduced an internationally recognized pre-college curriculum to reform education and nurture global citizens with leadership skills (Hill and Saxton, 2014). Japan's initiative to internationalize its young generation and prepare them for a more competent globalized world, can be best achieved through higher education reform (Yonezawa 2015). In 1979, the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), officially recognized the International Baccalaureate Diploma (IBDP) program equivalent to Japanese high school graduation. In 2014, MEXT, introduced the Super Global University (SGU) project and selected 37 top Universities to receive financial aid for the reformation of their present university educational system, in compliance with global trends (Iwasaki 2013 and Sanders 2018). Okayama University was selected, with the aim of developing into a role model global university, stimulating cooperation with top world universities and fostering innovative approaches, for global competitiveness. Okayama University was the first National University in Japan, to establish the IBDP admission policy in which, IB students were exempted from the National University Entrance Examination or any other written exams, for admission into the undergraduate course. From welcoming its first IB student in 2012, to presently hosting 36 IB students in 11 faculties and 1 special program, Okayama University has come a long way towards building an IB friendly National University in Japan. With a strong IB student support system, faculty education and extensive research on the IB education system (Mahmood 2016, Mahmood 2017) to familiarize IB in Japanese Higher Education, Okayama University is considered a pioneer in IB admissions among other Japanese National Universities. Through regular visits to IB schools at home and abroad, Okayama University has also formed a friendly network with IB school college counselors (CC), who play a very important role in the smooth transition of IB graduates into higher education. This research survey is a part of an initiative to summarize the suggestions and opinions of CC regarding the difficulties IB students face with University admission policies and Japanese education systems, and find ways to reform present admission policies, based on IB student needs.

SURVEY METHOD

This research study used a survey method. Participants of this survey included 20 college counselors (CC) from various International Schools and First Article schools in Japan. The purpose of the survey was explained to each CC in advance and all CC were reassured that names of IB schools and CC would be kept strictly confidential, and would not be revealed anywhere in the document. Individual surveys were collected via email, over a period of 6 months between October 2017 and March 2018.

Instrument: Survey Questionnaire

The questionnaire was divided into 5 major questions where CC were given the liberty to express their opinions freely, and were encouraged to give actual facts, that would help the survey be more transparent and form the main crux of this research. No Likert-type scale used to summarize each response. Rather than statistical significance, this survey aimed at summarizing responses by experienced CC who had real experiences with IB student admissions at Japanese and Foreign Universities.

SURVEY FINDINGS

In the first question, CC were asked about the kind of IB admission policies that IB students, parents and CC expect from Japanese Universities. (Table 1). Almost 100% CC emphasized the need to abolish Center Tests as admission requirements for IB Diploma graduates. Every CC expressed concern that, if only Japanese University Admission policy makers had a good

understanding of the IB program before admitting IB students, they would ask for more unreasonable IB Diploma scores and individual IB subject scores. About 80% CC hoped that not only English based programs but, all University faculties would accept IB graduates, recognize the IB Certificate, have clear and concise guidelines, be more transparent about IB admissions and provide conditional offers based on predicted scores. In addition to the above, about 50% CC emphasized the need for a good IB student support system, a “One stop application system” like UCAS in the UK, proper assessment of IB scores and CAS, and a clearer understanding of the “critical thinking and discussion skills” of IB students. Last but not least, many CC encouraged Universities to offer accommodation for IB students and assure campus safety, which was often a big deciding factor particularly for parents of IB students who lived abroad.

Table 1 Suggestions for IB-friendly Japanese National University Admission Policies

Expectations	Fulfilled by Okayama University
No Center Test or additional Tests for IB Students	☑
Recognize the IB Diploma as an entrance qualification	☑
All Faculties accept IB graduates	☑
Reasonable IB Diploma score requirements	☑
Reasonable scores for individual IB subjects	
IB student support system	☑
Good understanding about the IB	☑
Clear and concise guidelines	☑
Transparent Admission policies	☑
Condition offers based on predicted scores	
Campus safety	☑
Understanding “critical thinking and discussion” skills	※
Proper assessment of IB scores and CAS	※
Accommodation for all IB students	※
Transfer of IB credits	X
One stop application system like UCAS in UK	X
Recognize the IB certificate	X

※ Changes Okayama University is still trying to make

X Changes that Okayama University cannot make alone as a National University

In question 2, CC were asked about some disappointing aspects of Japanese University Admission policies, which they have come across in the past (Table 2). Most CC felt that Medical schools across Japan, demand too high IB Diploma scores (39-42) as a minimum requirement for application. In addition, lack of understanding of the IB education system, the IB Diploma course and the IB scoring system by University Admissions, were ongoing hurdles. A few CC expressed disappointment about some Universities that divided IB students based on passports, which caused confusion among IB students coming from intercultural backgrounds and having two passports. Another, very unrealistic, almost impossible requirement that IB students were often asked to meet was, taking all or most subjects in higher level (HL), particularly Mathematics. Other dissatisfactions included, unclear language requirements, complicated admission policies, unnecessary document requirements, inconvenient application timing for IB students (during IB exams), strict age requirement of 18 years at admission (as some IB graduates are much younger) and inflexible conditional offers with little or no knowledge of IB admissions worldwide.

Table 2 Disappointing aspects of Admission Policies at Japanese National Universities

Disappointments	Revised by Okayama University
Too high diploma scores such as “42” as admission requirement	☑
Insufficient or no understanding about the IB	☑
Lack of understanding about the IB diploma scoring system	☑
Dividing students based on passports	☑
Unrealistic expectations of IB Students	☑
Unclear Japanese language requirements	☑
Accepting Mathematics in HL only	☑
Too complicated Admission policies	☑
Inconvenient application periods for IB Students	☑
Inflexible conditional offers	※
Unfamiliar with overseas admission policies	※
Age requirement at admission 18 years or older	※
※ Changes Okayama University is still trying to make	
X Changes that Okayama University cannot make alone as a National University	
HL: Higher Level;	

For question 3, CC were asked to give their valuable suggestions regarding ways to improve the existing IB Admission Policies at Japanese Universities (Table 3). Suggestions from CC included, making clearer IB admission guidelines, specifying subjects required in HL or standard level (SL), educating university faculty about the IB, adding interviews for students with IBDP scores of 24 or less, allowing smooth transfer of IB credits, providing incentives for IB students with a diploma score of over 40 (such as scholarships or fee waivers), having fixed IB diploma score requirements for each faculty and acknowledging the fact that there is a difference between the Japanese dual language and full English IB programs.

Table 3 Suggestions for improving existing Admission Policies at Japanese National Universities

Suggestions	Revised by Okayama University
Clearer Admission Guidelines	☑
Clearer specifications of subjects required in HL or SL	☑
Train faculty about IB admissions	☑
Interview IB students for IB diploma scores of 24	**☑
Clearer distinctions between the Full English and the Dual Language IB	※
Allow transfer of IB credits	X
Incentives for students with IB diploma scores 40 or above	X
Fixed IB diploma score requirements for each Faculty	X
One stop application system like UCAS for all IB students	X
※ Changes Okayama University is still trying to make	
X Changes that Okayama University cannot make alone as a National University	
HL: Higher Level; SL: Standard Level; **Dept. of Education and the Medical School require interviews	

In answer to question 4 regarding which factors affect the choice of Foreign Universities over Japanese Universities among students (Table 4), CC listed about 10 main differences between Foreign and Japanese Universities which led to IB graduates choosing foreign universities over national universities. They included, English being the language of instruction, family influence, better job opportunities abroad, tuition fee waivers and attractive scholarships, worldwide university reputation, diversity of student body, college education similar to the IB, compatibility of college academic year starting dates with the IB, flexibility of academic choices and vast research opportunities, respectively. However, CC also mentioned 3 major factors

why some IB students and parents preferred Japanese National Universities, which included over all costs, overall safety and licensed professions in Japan.

Table 4 Why IB students choose Foreign Universities over Japanese National Universities

	FU	JNU
Language of instruction:	English	Japanese
Family Influence	Parents are foreigners	Parents are Japanese
Overseas Job Opportunities	Better	Fewer
Tuition Fee waivers/ Scholarships	For Students with high DP score	Difficult
University Reputation	Worldwide	In Japan only
Diverse student body	All Universities	Depends on location
IB-like education	Similar	Completely different
Academic choices	Vast	Limited
Research opportunities	Vast	Depends on University
Overall cost	Very Expensive	Reasonable
Overall safety	Variable	Very safe
Licensed job opportunities	Very Limited	Many in Japan

FU: Foreign University; JNU: Japanese National University; DP: diploma Program

Finally in answer to the final question regarding which factors affect the choice of Private Universities over National Universities (Table 5), CC listed 8 main differences. They included, lesser requirement of academic competency, vast choices of classes in English, absence of entrance exams in most private universities, active alumni network, globalized admission policies, campus environment, extensive size of international programs and many English speaking faculty. The two major reasons for choosing national universities over private universities was the overall cost and greater possibilities of getting employment at Japanese local and multinational companies.

Table 5 Why IB students choose Private Universities over Japanese National Universities

	PU	JNU
Academic competency	Easier	Tough
English programs	Vast	Few
Entrance exam	None /Easier	Difficult
Alumni network	Very active	Passive
Globalized admission policy	Very similar	Very different
Campus environment	Many foreign students	Limited foreign students
Size of International programs	Extensive	Limited
English speaking faculty	Many	Few
Research opportunities	Vast	Depends on University
Overall cost	Very Expensive	Reasonable
Licensed job opportunities	Very Limited	Many in Japan

FU: Foreign University; JNU: Japanese National University;

DISCUSSION

In order to become IB friendly, University representatives cannot overlook the important role of college counselors (CC), who have infinite knowledge about colleges all over the world, including admission processes, application deadlines, entrance requirements, University Courses, percentage of acceptances, housing, dorms and extracurricular activities. They are also very well informed about IB student capabilities, weaknesses, grades, parent's expectations and the financial situations of individual IB student families. Their multiple

activities include arranging university visits, recommending students to universities, counseling students, and providing the best possible University options that students can choose from. Their knowledge about student backgrounds and student characteristics, enables them to make important recommendations appropriate for each student.

In the present survey, all CC were disappointed with the fact that many Japanese Universities do not recognize the IB Diploma as a qualification for college entrance, and additionally imposes the Center Test or other entrance exams. Since the IB Diploma is an internationally recognized certification, accepted by most universities worldwide, it is only natural that Japanese Universities aiming to internationalize (Ninomiya et al, 2009) should consider such important admission qualifications (Yamamoto et al 2017). Okayama University stands out in Japan, as one of the very few National Universities, following global University trends, and accepting IBDP students without imposing any kind of admission tests. This is because Okayama University has a clear understanding of the IB Diploma Program. Regarding setting reasonable IB Diploma scores as a requirement for admission and recognizing the IB Certificate, the minimum IB Diploma score requirement to apply at Okayama University has is 24, in 10 out of 11 faculties. Besides that, the special program "Discovery Program for Global Learners" (Discovery 2018) accepts both IB certificates and the IB Diploma. Even though the admission guidelines at Okayama University are clear and concise, Okayama University regularly receives feedbacks from IB schools, students, parents and CC through networking, and updates and simplifies admission policies to accommodate IB students, which includes providing better conditional offers and accepting predicted scores. Okayama University is the only University in Japan, which has a unique support system for IB student entrants, consisting of an IB advisor, who keeps in touch with IB students, listens to their voices, caters to IB student needs and connects IB students to the University as a whole. Feedback from IB students, CC and parents have been very positive towards this effort and Okayama University intends to continue strengthening this support system, which is helping to bridge the gap between IB student expectations towards the university and the University expectations of IB students. In this survey, the biggest disappointment regarding Japanese University Admission policies for IB admissions from CC, seemed to be the lack of understanding of the IB education system. In order to accommodate students from a completely different educational background, it is necessary that University Admission policy makers know clearly about the IBDP curriculum, the difference between IB subjects taken in HL and SL, IB assessment methods, IB scoring systems, exam timings and age at graduation of the IB Diploma. Therefore, it is very important for Japanese Universities, to pay close attention to the suggestions put forward by CC and try to solve such problems. Since 2012, Okayama University has been educating faculty through attending and arranging IB educational conferences and workshops, publication of IB research papers (Mahmood 2017), networking with IB college counselors and learning hands on from enrolled IB student experiences (Mahmood 2016). With this proactive attitude, and through ongoing discussions feedbacks from surveys, Okayama University is making every effort to cater to the needs of IB students. Nevertheless, as a National University, and abiding by rules set forth by MEXT, there are limitations to the changes that can be made immediately, but continuous efforts are being made to improve admission policies in favor of IB students.

According to CC, foreign universities worldwide have a better understanding about the IB education system, offer scholarships and fee waivers based on IB student merit, and offer a wider variety of subject options and research opportunities (Bergeron 2015 and Conley 2014). While this seems a very lucrative choice for IB students in Japan aiming to work overseas, it can also be very expensive for parents of IB students who are completely dependent on private funds. Moreover, student safety issues and parental desires for their children to become licensed professionals in Japan, divert student minds towards Japanese Universities. IB

students who decide to pursue their higher education in Japan, need to choose between a National and Private University. Although Private Universities are expensive compared to National Universities, IB students who are financially secured, tend to go towards Private Universities for their globalized admission policies, extensive size of International programs, a large number of English speaking faculty, and in some cases, less requirement of academic competency or absence of entrance exams. However, some IB students and parents think National Universities are more credible institutions, focused on learning, with very low tuition fees and provide a wider platform for better job opportunities at local Japanese and multinational companies.

CONCLUSION

The IB education system is still very new in Japan and quite different from the traditional Japanese high school education system. For many years, Japanese National Universities have hosted a majority of undergraduate students who were mainly Japanese high school graduates. The few foreign students who came from a different educational background and enrolled into undergraduate programs, were expected to adapt to the existing Japanese University education system. However, when IB admissions into Japanese National Universities took off, it was not about just going global, but it also meant a better understanding of a different kind of an international educational system. Okayama University is leading the way as a pioneer for IB student admissions at Japanese National Universities. Although many changes need to come into effect to become more IB friendly, Okayama University will continue efforts to revise IB admission policies and encourage other National Universities to follow suit.

References

- Bergeron** 2015. Diploma Program students' enrollment and outcomes at US postsecondary institutions 2008-2014. Report for the International Baccalaureate Organization. Bethesda, MD.
- Conley** 2014. International Baccalaureate Diploma Program: Examining College Readiness. The Education Policy Improvement Center.
- Discovery Program for Global Learners 2018** https://www.okayama-u.ac.jp/eng/prospective_students/PA_DISCOVERY_Program.html
- Hill and Saxton** 2014. The International Baccalaureate (IB) Program: An International gateway to higher education and beyond. *Higher Learning Research Communications*. 4(3): 42-52.
- Iwasaki** 2013. Will the International Baccalaureate Take Off in Japan? *Nippon.com*. <http://www.nippon.com/en/currents/d00096/>
- Japan Society for the Promotion of science <https://www.jps.go.jp/english/e-tgu/selection.html>
- Mahmood** 2016. The International Baccalaureate Diploma Student Perspective on Student Life at Okayama University. *International Journal of Multidisciplinary Academic Research*. Vol. 4, No.3. 85-89.
- Mahmood** 2017. Viewpoints of Academic Advisors on International Baccalaureate Diploma Students Studying at Okayama University. *International Journal of Multidisciplinary Academic Research*. Vol. 5, No.1. 70-76.
- Ninomiya** 2009. The past, present and future of internationalization in Japan. *Journal of studies in International Education*. 13(2): 117-124.
- Ueda** 2015. Okayama University International Baccalaureate entrance examination design- Present and Future (In Japanese). *Daigaku Nyushi Kenkyu Journal*. Vol.26, 147-154.
- Sanders** 2018. Expanding the International Baccalaureate Diploma Program in Japan: The role of University Admission Reforms. *Journal of Research in International Education*. Vol. 17(1) 17-32.
- Yamamoto** 2017. Diversifying admissions through top-down entrance examination reform in elite Japanese Universities: What is happening on the ground? In Mountford-Zindars and Harrison NE (Eds.). *Access to Higher Education: Theoretical Perspectives and Contemporary Challenges* (p. 216-231). Oxford: Routledge.
- Yonezawa** 2015. Transformation of University governance through internationalization: Challenges for top universities and government policies in Japan. *Higher Education* 70 (2): 173-186

Interpretation of IB learner profile characteristics among students in Japanese Super Global High Schools

Background: The International Baccalaureate (IB), offers a continuum of international education with the aim of developing global leaders with intercultural understanding and respect. In order to foster globalized leaders who can play active roles on the International stage, in 2009, the Japanese government decided to provide financial and supervisory support to 56 Japanese High Schools nationwide, namely, Super Global High Schools (SGH).

Aim: The aim of this research was to find characteristics which are common in both IB and SGH students and also characteristics which vary due to different educational approaches. **Survey Method:** Since the IB learner profile is the basis of IB education, the 10 IB Learner Profile characteristics were translated into Japanese and compared with SGH student characteristics.

Between June and July 2018, the simplified, translated version of the IB learner profile, with a Likert scale of (1-5) attached for reference, was sent to SGH Counselors in 4 public and 1 private SGH in Okayama (3 SGH), Hyogo and Osaka Prefectures (2 SGH), respectively. Next, the University IB student advisor and the University Admissions Administrator (UAA), visited each school and interviewed the school counselors about the survey. **Survey**

Results: When survey results were summarized, it was found that the biggest dissimilarity between IB and SGH student characteristics, was “Risk Takers” while the biggest similarity was to both was “Balanced”. Other 8 IB learner profile characteristics in Japanese students, as seen by SGH counselors, was not so varied, although interpretation may have been influenced by the counselors or SGH’s own outlook. The interview also revealed a difference of opinion among SGH counselors in private and public SGH’s. Counselors at private SGH’S, tended to judge student characteristics more strictly and felt their student’s did not completely possess the IB characteristics of “Inquiry”, as well as IB students. **Conclusion:** This survey revealed that, although the main goals of both the IB and SGH are similar, student characteristics at SGH, depend mostly on the style of education, school policies and student potential. While IB education follows the same method in every IB school, education practices at SGH vary, and reflect a lot on the school's past education style, which impacts overall student learner profiles.

スーパーグローバルハイスクール訪問調査

岡山大学アドミッションセンター

テーマ「IBの学習者像とSGHで学ぶ生徒の状況」(仮題)

※IB:国際バカロレア、SGH:スーパーグローバルハイスクール

学校等:()高等学校(現2年生を想定して回答願います)

訪問日:2018年 月 日

次の10の項目は、IBが「IBの学習者像」として掲げているものです。また、項目の下にあるのは、項目を理解するためのキーワードです。項目については日本語での解説書も出ていますが、このキーワードを参考にしてください。

SGHで学ぶ生徒がどの程度当てはまるかお尋ねします。

5:全く当てはまる(ほぼすべての生徒に当てはまる)

4:やや当てはまる(多くの生徒に当てはまる)

3:どちらともいえない(ほぼ半数の生徒に当てはまる)

2:あまり当てはまらない(当てはまる生徒は半数より少ない)

1:全く当てはまらない(当てはまる生徒はほとんどいない)

項目及びキーワード	5	4	3	2	1
Inquirers					
Has a lot of curiosity 好奇心が強い					
Loves learning 学びを楽しむ					
Asks many questions よく質問する					
Focuses on topics of interest 興味を持っている課題に集中する					
Researches any topic thoroughly 徹底して追究する					
Has never ending curiosity あくなく好奇心を持っている					
Always eager to learn 常に熱心に学ぶ					
Interested in knowledge beyond books 興味関心が得た知識に留まらない					
Knowledgeable					
Uses knowledge gained 得た知識を活用する					
Solves problems 課題解決力がある					
Understands things from various perspectives 多角的に検討して理解する					
Thinkers					
Think before taking action 行動する前に考える					
Helps others solve problems 他の人の問題解決に協力する					
Thinking encourages responsibility 責任感を持って考える					
Principled					
Proud of who they are アイデンティティを大切にする					
Respects others 他人を尊敬する					
Independent 自立心がある					
Nice and caring 共感できる					
Creative 創造力がある					
Has ideas 発想力がある					
Has great curiosity about the world 広い視野で考える					
Listens to others 傾聴力がある					

項目及びキーワード	5	4	3	2	1
Caring Helpful 協力的である Cares about nature 自然を大切にする Loveable 多くの人に好かれる Open-minded 広い心を持っている Attitude 態度が優しい					
Risk-takers Always trying new things 挑戦し続ける Does not give up easily 簡単に諦めない Not afraid to take risks 危険を顧みない					
Balanced Smart 賢明である Does not choose friends 友を選ばない Tries challenging many things 何事にも努力できる Knows how to strike a good balance between study and play 文武両道に励む Engaged in multiple activities in and outside school 課外活動にも取り組む					
Reflective Tries to learn from own mistakes 失敗から学ぶ Appreciates advice from others 他人の意見を大切にする Always follows rules 規則に従う					
Open minded Understands and appreciates other cultures, persons 他の人の文化や背景を理解する Understands different perspectives 異なる見方を理解する Develops and grows from experience 経験から学ぶ					
Communicators Multilingual ability helps to better understand situations 多くの言語を使ってよりよく理解する Good at team work チームとして行動できる Very good at presentations 表現力がある					

問い合わせ先:岡山大学 准教授 Sabina Mahmood <sabina@okayama-u.ac.jp>
UAA 石井一郎 <ichirou_ishii58@okayama-u.ac.jp>

項目及びキーワード	A	B	C	D	E
Inquirers	5				5
Has a lot of curiosity 好奇心が強い		4		4	
Loves learning 学びを楽しむ			2		
Asks many questions よく質問する					
Focuses on topics of interest 興味を持っている課題に集中する					
Researches any topic thoroughly 徹底して追究する					
Has never ending curiosity あくなき好奇心を持っている					
Always eager to learn 常に熱心に学ぶ					
Interested in knowledge beyond books 興味関心が得た知識に留まらない					
Knowledgeable				5	
Uses knowledge gained 得た知識を活用する	4	4			4
Solves problems 課題解決力がある			3		
Undertands things from various perspectives 多角的に検討して理解する					
Thinkers				5	5
Think before taking action 行動する前に考える		4	4		
Helps others solve problems 他の人の問題解決に協力する	3				
Thinking encourages responsibility 責任感を持って考える					
Principled				5	5
Proud of who they are アイデンティティを大切にする	3	4	4		
Respects others 他人を尊敬する					
Independent 自立心がある					
Nice and caring 共感できる					
Creative 創造力がある					
Has ideas 発想力がある					
Has great curiosity about the world 広い視野で考える					
Listens to others 傾聴力がある					

項目及びキーワード	A	B	C	D	E
Caring	5	4	5	5	4
Helpful 協力的である					
Cares about nature 自然を大切にする					
Loveable 多くの人に好かれる					
Open-minded 広い心を持っている					
Attitude 態度が優しい					
Risk-takers		4		4	4
Always trying new things 挑戦し続ける	3		3		
Does not give up easily 簡単に諦めない					
Not afraid to take risks 危険を顧みない					
Balanced	5	5	4	5	5
Smart 賢明である					
Does not choose friends 友を選ばない					
Tries challenging many things 何事にも努力できる					
Knows how to strike a good balance between study and play 文武両道に励む					
Engaged in multiple activities in and outside school 課外活動にも取り組む					
Reflective	5	4	4	5	5
Tries to learn from own mistakes 失敗から学ぶ					
Appreciates advice from others 他人の意見を大切にする					
Always follows rules 規則に従う					
Open minded	4	4	4	5	4
Understands and appreciates other cultures, persons 他の人の文化や背景を理解する					
Understands different perspectives 異なる見方を理解する					
Develops and grows from experience 経験から学ぶ					
Communicators		5	4	4	5
Multilingual ability helps to better understand situations 多くの言語を使ってよりよく理解する	3				
Good at team work チームとして行動できる					
Very good at presentations 表現力がある					

2018年4月入学IB生7人の半年後のフォローアップ調査

1. あなたはアカデミックライフやキャンパスライフに満足していますか？

満足しています：4人

どちらとも言えない：3人

2. あなたはグローバル人材育成特別コースに入りましたか？

入りました：2人

入りませんでした：5人

3. 日本語で大学の講義はよく理解できますか？

理解できます：4人

理解できない講義もあります：3人

4. 日本語でレポートを書くことは難しいですか？

難しくない：4人

読むより書くことが難しい(漢字):3人

5. 部活はしていますか？

はい：5人(楽しいです)

はい：1人(楽しいです。しかし、先輩後輩の関係は難しすぎます)

入っていない：1人

6. 学内他のIB生と触れ合うことはありますか？

あります：4人(同じ学部のIB生のみ)

あまりないです：1人

ないです：2人

7. 大学内英語で話す機会ありますか？だれと？どこで？

ありません：2人

あります：5人(他のIB生と；英語の授業で；L-C a f eで；カフェテリアで；E P O Kの学生と)

8. 現在、好きな科目は何ですか？

ありません：1人

あります：6人(中国語；早期地域医療実習；解剖学実習；上級英語；P E；生物)

9. 難しい科目はなんですか？

医学専門の授業全て(2人)；組織学；レポートの書き方講座；細胞生物学；物理学(2人)；生化学

10. 大学の先生からどんな学生支援を求めていますか？

今のところありません：2人

あります：5人

入学後 Japanese technical terms の実習；入学前に先輩のIB生との Contact；英語の授業を受けさせないで下さい；研究、奨学金、海外実習に関する情報；IB生を受け入れる学部の先生のIB知識がないことは残念；IB生と日本の高校生の違いを理解してほしい；もっと分かりやすい授業と説明がほしい；

大学教育再生加速プログラム採択事業勉強会報告

「国際バカロレア校教員がお答えします！

— 初歩から実践まで — 質疑応答セッション」

1. 日 時：平成30年7月4日（水）9：00～11：00
2. 場 所：岡山大学本部棟 第2会議室
3. 主 催：岡山大学アドミッションセンター
4. 参 加：国際バカロレア候補校、国際バカロレア関心校関係者
5. 参加人数：約20名

6. 概 要：

国際バカロレアについては、様々な情報が公開され、関係出版物も増加しているが、国際バカロレア教育を実施している学校数は未だ少なく、また、そのような学校の生徒や関係者に接する機会もほとんどないといつてよい。その一方で、国際バカロレア教育については、文部科学省の取り組みなどにより、さまざまな方々が様々な関心を持たれていると考えられる。

このような状況を踏まえて、国際バカロレアの教育を実践し、国際バカロレアの管理運営や様々な規則などに精通した方をお招きして、国際バカロレアについて、日常感じたり、考えている質問や疑問についてお答えして、国際バカロレアをより良く理解し、知ってもらうこととした。

講師は、国際バカロレア候補校に対する国際バカロレア機構の訪問調査コンサルタントを担当している、小林峰子氏（K International School）（日本語担当教員）にお願いした。

当日は、岡山県内・県外から、国際バカロレア教育を学内の教育に活かそうと考えている教員、国際バカロレア候補校への準備を進めている高校の管理的な立場にある方参加され、教員養成、教育内容、教育方法の特徴などの他、施設準備などについて質疑応答があった。

国際バカロレア校教員がお答えします！ —国際バカロレアの初歩から実践まで— 質疑応答セッション

- 日 時 平成30年7月4日（水）
- 時 間 9：00～11：00
- 会 場 本部棟6階 第2会議室
- 参加費 無料
- 申込み アドミッションセンターHPから登録下さい



<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/admissions/news/2018/06/1047/>

国際バカロレア（IB）について、興味はあるし、情報は持っていますが・・・
身近にIB校はなく、関係者も知らない。

- ◇ 実際の授業はどのように進められているの？
- ◇ 生徒はどのように「学び」を身につけていくの？
- ◇ 成績の評価はどのように行われているの？
- ◇ 同じIB教育でも、インター校と一条校の違いは？
- ◇ 日本語と英語のIB授業の違いは？ 英語の運用能力はどうか？
- ◇ IB生はどのように大学選択を行い、どのように進学先を決めていくの？

などなど。

IB教育についてのさまざまな質問、疑問、懸念に

IBの仕組みや実際の教育に豊かな経験を持つIB校教員の方が
お答えくださいます。

国際バカロレアに興味がある方、もっと知りたい方、疑問を解消したい方は
是非、ご参集下さい。

- 回答者：小林峰子氏（K International School）（日本語担当教員）
（IB試験官、ワークショップリーダー、確認訪問団コンサルタント）

お問合せ先 国立大学法人 岡山大学アドミッションセンター

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

TEL：086 - 251 - 7284

e-mail：ac@okayama-u.ac.jp

大学教育再生加速プログラム採択事業ワークショップ報告

知の理論ワークショップ

「低所得世帯の学生に TOK を教えることの意味」

1. 日 時：平成30年9月9日（日）10：00～12：00
2. 場 所：岡山大学津島キャンパス L-café
3. 主 催：岡山大学アドミッションセンター
4. 参 加：国際バカロレア教育（特に TOK）に関心のある教育関係者、一般の方
5. 参加人数：約40名
6. 講 師：David Gregg 氏（米国シカゴ市セン高等学校・国際バカロレア・コーディネーター）

7. 概 要：

国際バカロレア教育はエリート育成のための教育と評されることもあるが、北米では、経済困難地区の教育困難校に導入され、地域教育改善の成果をあげてきた。特に、シカゴ市は、市が実施主体となって公立の低所得者学区の高校に導入を進めた。この TOK のワークショップは、その低所得者学区の IB 校において、最初に TOK を担当した David Gregg 氏から、その時の工夫、経験を紹介していただいた。その後、参加者は少数のグループに分かれて、講師指導の下、TOK 活動の実践を行い、授業参加者の学力や関心が多様であるなかでの TOK 的な教育方法の活用の仕方を学んだ。



大学教育再生推進プログラム

知の理論 ワークシヨップ

「低所得世帯の学生にTOKを教えることの意味」

IB教育プログラムのコア科目である「知の理論 Theory of Knowledge (TOK)」では、私たちが「知っている」と主張することをいかにして知ることと問いかけています。「知識が構築されるプロセス」を多角的な視点から捉えることにより、探究や考察に必要な能力やスキルを修得し、さらに知識を概念化して思考する力を養います。このように自ら進んで学び、考え、判断する能力を獲得して自律した学習者を育てることは、現在進行中の日本の教育改革の目指すところです。

このワークシヨップでは、米国イリノイ州シカゴ市の低所得者学区に導入されたIB校でTOKを担当してきた教員が自らの経験から得た知見を紹介・共有してくれまます。人種、学力、経済的背景も多様な学習困難校でTOKを教えることの意味は何なのか。どのような難しさがあり、それをどう乗り越えればよいのかなど、参加者のみなさんからの質問や懸念に、実際の授業実践を交えながらお答えします。

David Gregg
前 TOK 担当,
現 Coordinator,
Nicholas Senn High School,
Chicago

【お申し込み】

9月4日までに下記のサイトで
<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/admissions/>

【お問い合わせ】

岡山大学 アドミッションセンター
admission@okayama-u.ac.jp

9月9日(日) 10:00~12:00

岡山大学 L-café

(津島キャンパスの下記リンク地図)

<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/lcafe/access/>



大学教育再生推進プログラム

WORK SHOP

「Teaching TOK to Low-Income Students :Personal & Shared Knowledge from a Chicago School」

IB教育プログラムのコア科目である「知の理論 Theory of Knowledge (TOK)」では、私たちが「知っている」と主張することについていかにして知ることと問いかけています。「知識が構築されるプロセス」を多角的な視点から捉えることにより、探究や考察に必要な能力やスキルを修得し、さらに知識を概念化して思考する力を養います。このように自ら進んで学び、考え、判断する能力を獲得して自律した学習者を育てることは、現在進行中の日本の教育改革の目指すところです。

このワークシヨップでは、米国ミシガン州シカゴ市の低所得者学区に導入されたIB校でTOKを担当してきた教員が自らの経験から得た知見を紹介・共有してくれまます。人種、学力、経済的背景も多様な学習困難校でTOKを教えることの意味は何なのか。どのような難しさがあり、それをどう乗り越えればよいのかなど、参加者のみなさんからの質問や懸念に、実際の授業実践を交えながらお答えします。

【Facilitators】

David Gregg 氏
(Nicholas Senn High School)

【Register】

Register online by Sep. 4th
<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/admissions/>

【Question】

Okayama Univ. Admissions Center
admission@okayama-u.ac.jp

Sunday, September 9 10:00~12:00

Okayama University L-café

(E4 in the map below)

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/soumu-access_tsushima_e.html

大学教育再生加速プログラム採択事業
「知の理論」をひもとく UNPACKING TOK ワークショップ

概 要:

国際バカロレア (IB) はこれからの世界を担う若者を育む教育として世界で広く認められています。IB 教育が育もうとする資質や能力は、現在我が国が進めている教育改革の目標とよく一致しており、IB 教育の普及拡大に向けて、積極的な取り組みが進められています。

このワークショップは、IB 教育のコア科目である TOK (Theory of Knowledge) に関するワークショップで、昨年度から開始しました。平成 30 年度も前年度に引き続き、IB 候補校などの高校教員や TOK を教育に活用しようとする大学教員などを対象に開催しました。

TOK は、私たちが「知っている」と主張することをいっただいどのようにして知るのか、という「知識が構築されるプロセス」を深く学ぶことで、探究や考察に必要な能力やスキルを修得し、さらに、知識を概念化して思考する力を養います。このようなプロセスを通して、自分なりのものの見方や主張をより思慮深く、検証的に振り返り、他人との違いを自覚できるよう促していきます。また、さまざまな科目学習において実践することで、自律的で探究的な学習を実現していきます。TOK については、岡山大学の教養教育科目 (「知の理論」入門) として昨年度から開講しています。

ワークショップでは、『「知の理論」をひもとく UNPACKING TOK』の第3章「演習のための素材文」を参加者同士協働して読み解きました。

第6回 開催日時：1月26日 (土) 13:00～17:00

場所：名古屋外語大学

参加者：IB (候補) 校等の高等学校関係者、IB 修了生受入大学他 46名

第7回 開催日時：2月9日 (土) 13:00～17:00

場所：明治学園高等学校

参加者：高等学校関係者、大学教員 48名

大学教育再生加速プログラム採択事業

知の理論をひもとく Unpacking TOK ワークシヨップ (第6回)

2019年1月26日(土)

13:00~17:00

名古屋外国語大学 7号館

アクセス→<https://www.nufs.ac.jp/outline/access/>

第3章「演習のための素材文」を
みんなでいっしょに
TOK 思考法で分析してみませんか。



【ファシリテーター】

キャロル・犬飼 デイクソン (筑波大学)

森岡明美、田原誠 (岡山大学)

井上志音 (灘高等学校)

【申込サイト】 goo.gl/HP7FGm

【申込締切】 2018年12月18日(火)

【受付人数】 44名

【お問い合わせ】 unpackingtok@gmail.com

【主催】岡山大学アドミッションセンター 【後援】名古屋外国語大学 WLAC

大学教育再生加速プログラム採択事業

「知の理論」をひもとく Unpacking TOK ワークシヨップ (第7回)

2019年2月9日(土)

13:00~17:00

明治学園高等学校 A・B棟

(北九州市戸畑区仙水町5番1号)

アクセス→<https://www.meijigakuen.ed.jp/etc/access.html>

第3章「演習のための素材文」を
みんなでいっしょに
TOK 思考法で分析してみませんか。



【ファシリテーター】

森岡明美・田原誠 (岡山大学) 井上志音 (灘高等学校)

【申込サイト】 goo.gl/PQ1kTa

【申込締切】 2019年1月15日(火)

【受付人数】 48名(先着順)

【お問い合わせ】 unpackingtok@gmail.com

【主催】岡山大学アドミッションセンター 【共催】明治学園中学高等学校

第5回 国際バカロレアシンポジウム

「教育に枠はない- IB for everyone」

国際バカロレア（IB）教育は、修了生が世界のトップクラスの大学に受け入れられることから、高学歴のエリート養成のための特別なプログラムとして受け止められています。

しかし、米国などでは、多民族の低所得者層地区の公立の教育困難校に導入され、生徒の高校や大学進学後の学びの改善が示されたことから、より多くの公立の学校でIB教育が取り入れられています。また、これらの学校では、IB科目をIBコース履修生以外にも開放し、IB教育で学ぶ機会をより多くの生徒に提供しています。

現在、我が国の教育は、従来の知識・技能を教える教育から、学習者が自ら進んで考え、判断し、多様な人々と協働して問題を解決する資質や能力を育む教育へと大きく転換しようとしています。このような「新しい能力」を育むために、多様な学習活動が高校や大学教育にも導入されつつありますが、IBはこのような教育を実践するプログラムとして注目され、その導入・普及を積極的に進めるための対策が実施されています。

本シンポジウムは、シカゴ市においてIB教育を低所得者学区に導入する施策を企画・運営されてきた担当者の方、また、日本と米国の高等教育の研究者で、フロリダ州の移民の多い低所得者地区に導入されたIB校について調査を行った大学教員の方をお招きして講演をしていただきます。これらの講演の後、IB教育の専門家、長年IB教育を担当され現在IB校の校長を務められている方、IB校を地域に設立するために活動されている方に参加していただき、IB教育を、公立学校を含めて広く導入・普及するために、どのように活動していけばよいかなどについて討論し、提言をいただきます。

2018年9月7日(金)13:00～16:00

岡山国際交流センター

《 参加申込 》

岡山大学アドミッションセンターホームページから9月4日(火)までにご登録ください。⇒<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/admissions/>

入場
無料



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

お 問 合 せ

岡山大学 アドミッションセンター

TEL : 086-251-7284

E-mail : ac@okayama-u.ac.jp



第5回国際バカロレアシンポジウム

～教育に枠はない - IB for everyone～

◆日 時 平成30年9月7日（金） 13:00～16:00
◆場 所 岡山国際交流センター 国際会議場

プログラム

12:30～ 受 付

13:00～ I 開会の挨拶 岡山大学理事・副学長（教育担当）佐野 寛

II 講 演

13:10～13:40 “The Impact of IB Programs in an Economically
Disadvantaged Area in Florida”
IB のインパクト—フロリダ経済的困難地区で—
前玉川大学教授，現 University of West Florida

Douglas Trelfa 氏

13:45～14:15 “The Story of IB in Chicago” IB 導入—シカゴの場合—
Chicago Public Schools, School Social Worker

Sara Leven 氏

14:15～ 休 憩

15:00～ III パネルディスカッション

パネリスト

筑波大学客員教授 日本国際バカロレア教育学会会長

キャロル・犬飼・ディクソン 氏

英数学館高等学校 校長

永留 聡 氏

白馬インターナショナルスクール設立準備財団 代表理事

草本 朋子 氏

Douglas Trelfa 氏

Sara Leven 氏

モデレーター

岡山大学副学長（入試改革担当） 田原 誠

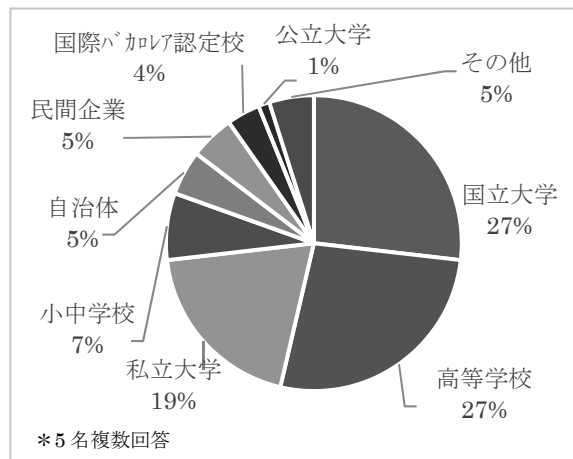
16:00 閉 会

大学教育再生加速プログラム採択事業シンポジウム ～ 教育に枠はないーIB for Everyone ～

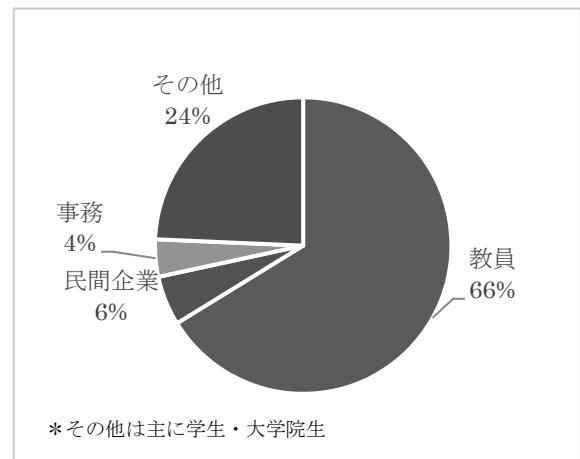
日 時 平成30年9月7日（金） 13時00分～16時00分
場 所 岡山国際交流センター 国際会議場

参加者数 102名（学外82名 学内20名）
アンケート回答者数 74名

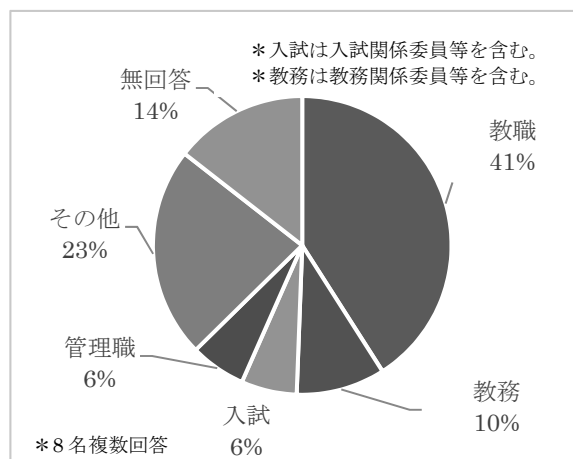
問1. ご所属はどちらですか。



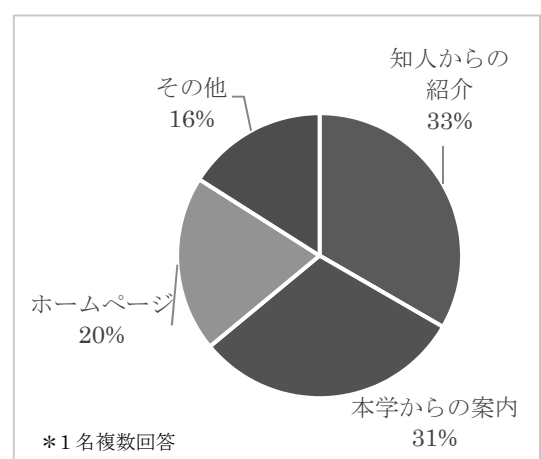
問2. 職種をご回答ください。



問3. ご担当のお仕事を回答ください。



問4. 本日のシンポジウムの開催をどちらで知りましたか。



問5. 本日のシンポジウムはいかがでしたか。それぞれについて回答ください。

■IB のインパクト — フロリダ 経済的困難地区で — University of West Florida, Douglas Trelfa 氏

選択項目	回答数	回答率
1. 参考になった	43	58%
2. まあ参考になった	23	31%
3. あまり参考にならなかった	7	10%
4. 参考にならなかった	1	1%

(感想)

- Pensacola 高校の取り組みについてもう少し具体的な事例を出していただけると良かったかなと思います。
- もっと具体的な内容が聞きたかった。表題とあまり一致していなかった。
- IB はエリート教育であるという認識が前提として感じられることが多いが、それを打ち破るという意味で大いにインパクトがあった。
- ダグラス氏のバックグラウンドがとても興味深かったです。詳しくお話を聞きたいと思いました。
- As someone born and raised in the US, and who has also worked in education at a school aiming to implement an IB program, most of the things covered in the presentation were already apparent. I would have loved to hear more about the research into the socioeconomic backgrounds of students. He's done and the impact that the IB has had on students of different backgrounds.
- IB というエリートのイメージがあったが、そうでないことが分かった。
- 聞き取りやすい英語でお話ししていただき、分かりやすい講演でした。一部の裕福な層だけでなく、広く一般に IB の教育を取り入れれば良いか卒論で研究しており、興味深い内容でしたが、Pensacola における実際の実践についてもっと詳しく知りたいと思いました。
- 30 million words project のお話が興味深かった。西フロリダの事例をもう少し詳しく知りたかった。
- 初めて知った知識と自分の考えを改めて変えられました。
- 教育の可能性を感じた。
- Common Core Standards との alignment などが必要かということも伺いたかった。
- この話は文科省に聞いてほしいです。
- 日本の教育制度を熟知された上での IB プログラムの説明をいただいたので、わかりやすくとても参考になりました。
- 経済的に困難な生徒とそうでない生徒の負担の違い、経済的な問題で勉強が充分でない生徒へも DP 教育ができるのか？あたりもお伺いしたかった。
- 校内の IB 生／IB 以外生の影響関係をプラス要因として考えていく種がいただけました。
- 日本型の IB 教育をどうつくりあげていくかを考えるきっかけになりました。
- 具体的に学校の様子、生徒の授業内容を映像で見せてほしかった。
- もう少し具体的な例をお話していただきたかったです。

- 話が抽象的すぎた。実際に行っている授業内容が知りたかった。
- 日本の教育とアメリカの教育の成長（program）と変化が見えておもしろかった。
- 広島にゆかりのあるというダグラス先生のお話で興味を持ちました。
- ハーフであるからこそその話が興味深かった。
- Identity Crisis みたいなところから TOK というのがとても興味深かった。
- IB が日本の IB を選択していない生徒たちとどのようにコラボできるのか、これからに興味があります。
- もう少し具体的に聴いてみたかった。
- 経済的困難な子どもたちを対象に IB 教育を行うということが日本でも行われるようになればなあ…なんて思いながら聞いていました。

■IB 導入 —シカゴの場合— Chicago Public Schools, Sara Leven 氏

選択項目	回答数	回答率
1. 参考になった	55	74%
2. まあ参考になった	16	22%
3. あまり参考にならなかった	3	4%
4. 参考にならなかった	0	0%

(感想)

- 市全体の取り組みであることがよくわかりました。リーダーシップの大切さも…
- 具体例がいくらか示されていた点は良かった。
- 画期的な導入と拡大が興味深いと思いました。シカゴの都市性を照らし合わせて考察を伺いたい。
- IB for All の視点がおもしろかった。
- Sara 氏やその他の人たちのシカゴの IB 校を増やしたプロセスにとっても素晴らしく思いました。
- IB がエリートだけを対象にしている訳でなく、すべての子供に対して開かれているということへの取り組みは非常に興味深かった。
- I'd heard from a colleague in passing about the success of the IB programs in Chicago, but Sara's presentation helped me to understand how it became so successful in the Chicago context. I would have loved to hear more about all the different programs (how many CPs, what kinds of students have found success, whether they tend to matriculate overseas, etc.) if we had more time.
- シカゴでの IB の拡大について聞き、驚いた。また、そのバックアップを市が行っていることにも驚いた。
- 分かりやすい講演で良かったが、貧困層の生徒にどのようにアレンジして（変化させて）IB を提供するのか、またアレンジの必要はないのか、実際の実践について知りたいと思った。
- 具体的な歩み、Mayor と board の仕組みを知ることができた。Sara 先生のポジティブなお話から IB の可能性を感じた。
- 大変良かったです！

- IB 校になる取り組みが良い。
- 以前、シカゴの Wildwood Elementary School を視察したことがある。公立で、先生方がちゃんと PYP と MYP をされている学校でした。
- IB 校の協力性が競争よりずっと大事だということは日本でもっと広げてほしいです。
- 22 年前からの IB プログラムの変遷についてご説明をいただき、アメリカの先進的な取り組みに感銘を受けました。
- シカゴの様子がよくわかり、非常に興味深く面白かったのですが、さて日本の教育の中で IB を導入するには参考になったかという点、教育政策担当の方に特に聴いてもらったら良いと思います。
- ごく普通の子どもが IB 教育を受けている点に驚きました。(アジア圏の International School では学費がかなり高い学校ばかりでしたので。)
- 広め方・進め方が分かりました。
- シカゴ 1 校から 25000 人規模まで拡大した過程は興味深かった。
- 生徒の変化をもっと知りたかった。
- エリート教育ではない、裕福な地域じゃなくても IB が成功できる例を見てとても良かった。
- wall to wall という合い言葉が良いですね。教師も生徒も楽しんで学んでいることが伝わってきました。
- シカゴすごい。
- 研究の詳細を知りたかった。
- IB をスクールディストリクトで運営するためのシステム、5 校に 1 校以上が IB 校というのはすごいなと思った。
- 強いリーダーシップと公的な資金、家庭の理解がキーになるのだと思いました。DP 生へのサポートとは具体的にどんなものなののでしょうか？
- IB はお金がかかる。でも市長がやらしただけ、お金出したでは全く参考にならない。
- 何のためにどんな教育を展開していくことが必要なのかを考える機会となりました。
- 生の IB 生の声を聞くことができたことが非常に良かった。
- はじめはたった 10 校ほどで始まったのがあっという間に広がって、やはりそれだけ IB は魅力のある教育なのだと思います。

■パネルディスカッション

選択項目	回答数	回答率
1. 参考になった	58	82%
2. まあ参考になった	13	18%
3. あまり参考にならなかった	0	0%
4. 参考にならなかった	0	0%

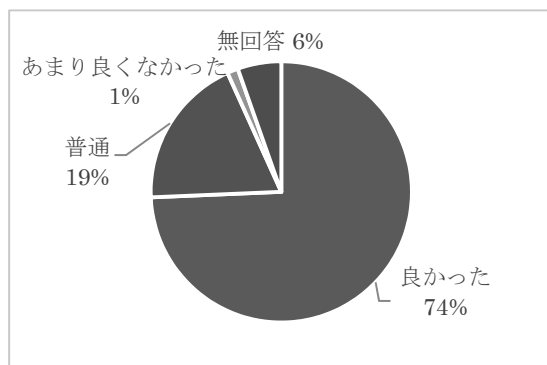
(感想)

- 日本の教育文化の中でどうしていくのかを考えていくことが大切。
- いろいろな話題が出てきて、参考になりました。

- エリートのためだけでない IB の価値を改めて理解し、そのプログラムにかかわることに自信がもてた。各地がプラットフォームになるという永留先生の意見にも頷けた。
- 有意義な内容も聞けたが、質問と答えがかみあっていないこともあったように思う。
- 一方で（ダグラス先生の東洋／日本型 IB のお話のような）もう少し IB を批判的に考える視点もほしかった。
- シカゴの IB の実態がわかり興味深かった。
- ダグラス氏の背景・家族の話を聞いて、やっぱり“Sel8”が IB には大事だと思いました。
- 専門との関連で、IB と Identity construction のつながりが興味深かった。
- 教員としての視点と IB の視点は重要であると思った。
- I liked that the two presenters and Carol put the emphasis on equipping students with life-long skills, rather than just focusing on the short-term goal of attending university. However, I think with how the attitudes on education are here in Japan (including the student-centered classroom, rather than teacher-owned classroom) there are some additional concerns that I think the Chicago-style implementation cannot address for the Japan context.
- IB の価値について考えが深まった。様々な角度から IB を見れた。
- 日本とアメリカの現状をメインとして、IB を広げることへの課題とその解決策について知識を深めることができ勉強になった。より IB に興味がわいた。
- 質問の時間が短い。
- 疑問に感じていたことがクリアになった。
- 実際に IB はレベルが高いものだという認識があったが、経済的困難地区での導入実践例なども聞くことができ、日本でも公立学校での IB 導入を進めることにはメリットが多いと感じた。
- 具体例があり、わかりやすくなりました。
- 自分の意見がディスカッション内のエビデンスによって新しく知ることができた。
- いろいろな角度から聞けた。
- 非常におもしろかったです。特に、日本の文脈とアメリカの文脈の比較など、参考になりました。
- ディスカッションは良かったが、たまにディスカッションではなく単に話をするだけでも少しあてはどうかと思いました。Q&A もできて良かったです。
- 講演者に加え、日本で先進的な取り組みをなさっているパネラーの皆さんのお話はとても実践的で参考になりました。
- 日本の特殊な状況を基に議論をする場でないので、いろいろお話ししたい事もあるが IB 教育の持つ別の面が知れて良かったと思います。
- 様々な角度から、米と日との IB 教育を取り巻く状況を比較でき、自分たちの環境にも活用できる点が多くありました。
- より多くの事例を聞くことができ、これからやるべきことが改めて整理できました。
- 様々な視点から考えるきっかけができました。
- 皆さんのお話から理念あるところに希望はひらけることはわかるが、その理念を共有できるまでの広げ方が模索の苦しさで今、日本はある。また、そもそも西洋圏のカリキュラムがアジア圏にどうリンクするか、難しさがある。

- 日本の“先生”とシカゴの“先生”の疲弊度合いが際立っていた気がします。IB は良いものと分かっているし期待していても、それを実行したい！という気力が湧かないほど日本の教員が疲れていることを海外の方々と share できたら良いです。
- IB を日本で新たに導入するための難しさ等がよく分かった。
- とても興味深く、参考になりました。
- 様々な観点から話を聞けて良かった。
- 日本とアメリカの対比がおもしろかったですが、両者の共通点も知りたかったです。
- IB 校を運営する上でのいろいろな側面の話が聞けて大変興味深かった。フルディプロマだけでなく、サーティフィケートの生徒も増やす。
- 良い人間になるということが日本の教育では評価されにくいのかなと思いました。大学の入試にバリエーションが増えても、「知識をたくさん持っていること」が評価されるので「学べる人になった」ことは大きく評価されないのでは？
- 東京の TOEFL 助成に驚いた。岡山ももっと教育にお金を出すべき。
- 興味深かったです。トランジションを改めて考えさせられました。
- やはり日本の文脈の中に IB を入れることは様々な困難が伴うと感じた。しかし取り入れていかなければならないと思う。
- 日本、海外それぞれでの IB 校の実態、想いを聞くことができてよかった

問 6．全体の運営はいかがでしたか。

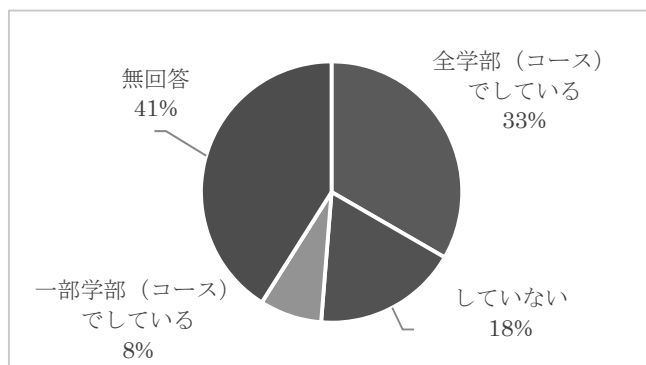


- 同時通訳、大変助かりました。お疲れさまでした。
- 同時通訳があったので、細かい点も理解できて良かった。
- 田原さんの司会がおどおどしていてよくなかった。
- 印刷物の紙がしっかりしていて驚いた。もう少し紙の量を減らす工夫をした方が環境には良いかもしれない。

- スムーズでした。
- 雰囲気が大変良かった。
- スムーズでした。Okayama Convention Center のペーパーバッグを頂きましたが、希望するかしらないか尋ねてほしかったです。sustainability の観点から。
- 今後もこのようなシンポジウムがあれば参加したいと思います。明日の学会へも参加したいと思います。
- 翻訳の機械が時折ノイズを発してしまい、周りに迷惑をかけてしまう時があったのが残念でした。
- 休憩時にフロアから質問紙を集める方法をとると良かった。
- 良い質問が多かった。

問7. 大学関係者の方に伺います。

① 貴学では国際バカロレア入試を導入していますか。



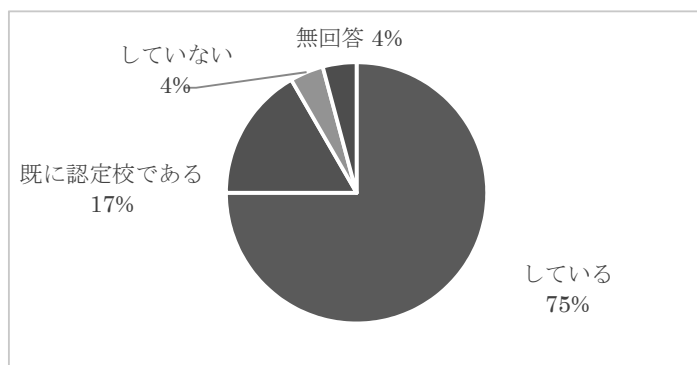
② 日本でも公立校での国際バカロレア教育（IB）導入が進んできています。

貴学でのIB修了生の受入について、ご意見をお聞かせください。

- 本学はIB入試制度有。
- どんどん増やしたい。
- 積極的です。良いと思います。
- 2020に初めてIB入試を行う。
- ぜひ導入したい。
- 更に進めたい。
- もっと幅広く、たくさんの大学がIB生／IB入試をしてほしい。
- お金がない。
- IB教育自体は価値があることだと思うが、今の受験形態が経験ではなく点数重視になっていることに問題があると思う。
- 受け入れていくことが必要だと思いますが、まずエビデンスを集めることから始めなければなりません。

問8. 高等学校関係者の方に伺います。

① 貴校では、国際バカロレア認定校になることを検討されていますか。



② 公立校での IB 教育の導入について、ご意見をお聞かせください。

- 授業料の面で、多くの生徒にチャンスが与えられるので、大いに導入する方向で動いてほしい。
- 本校は私立だが、公立であれば教育委員会の協力が必要。さらに学校全体が IB を理解する姿勢が大切。
- これから進めていくことが必要だと考えている。フルディプロマ以外の方法（一部を採用する方法）も考えることが必要。
- It would be wonderful for public schools to introduce the IB (or a style similar to IB) into their curriculum! The more there are the better unless that was done with a clearly defined idea, goal in mind, and commitment to the program, however, I don't envision happening.
- 広島県にて導入されます。しかし、教員がやらなければならない準備がたくさんあることも事実です。
- 全体の引き上げ、とりわけ上位層の引き上げにも有効である。
- MYP の義務教育段階では、学習指導要領との整合性を訊かれることが多く大変です。公立校で協力して、あるいは文科が説明資料を作るべきです。
- 私立ですが 4 月からやることで時間調整が大変です。できても生徒の休み期間が少なく、CAS や EE に余裕を持ってできなさそうですので、1 月からできるようになることがベストだと思います。
- IB は費用がかかるが、公立としてその費用を生徒に負担させにくい一方、1 クラスあたりの生徒の人数や教員の質などは、今の日本では特別扱いすることになる。この場合の公平さについてどう理解してもらうか！
- 認定校になるか否かはともかくとして、IB の理念に基づいた教育スタイルを導入するのは有意義だと思います。
- 働き方のシステムを変えるのなら可能だと思いますし、ぜひ導入すべきだと感じています。新学習指導要領は IB そのものとも感じています。
- もっともっと取り入れていくべきだと思います。
- たくさんの IB 校が作られています、「これまでの教育とは違う！」「国際人を育てる！」というコンセプトがとても先行しているので、日本ではやはり elite 教育的に受け止められている感が否めません。シカゴの事例等 evidence を示してもっと周知した方が良いと思います。
- IB のカリキュラムは 21 世紀型スキルと通じるものがあると思うので、ぜひ普通の公立学校で導入すべきだと思います。
- 茨城県在住です。子供が通う高校が昨年度より IBDP 認定校となりましたが、子供は該当学年ではなく参加していません。IB 生は 1 学年 240 名程度の学年のうち 20 名弱ですが、普通クラスの授業とは違う自分達で作っていく授業スタイルが面白く主体的に学んでいるそうです。英語が大変で毎日忙しそうですが、4 月当初に比べての自分の成長を自分で感じながら学べていると話しているのを聞きました。我が家の子供は高 3 で暗記、暗記と詰め込んでいる様子と比べ、大変魅力的に思います。公立校で隅から隅まで IB！ぜひ IB が広く普及してほしいと思います。
- 米国で、お金のかかる IB 校に州がお金を払うのはおかしいという裁判があったらしいが、州が勝訴し資金を与え続けたという話を聞いたことがあります。公立も腹をくくって IB 校を設立し、試験などにかかる費用のみの負担で DP を履修できるようにすれば良いと思います。

- 私立のみならず、公立でも IB 導入が進めば良いと思っています。
- 新しい学習指導要領がより中身を持った実施になるためにも必要だと思う。
- 教育の方法を根本的に変える絶好の機会だと思う。MYP に関しては日本の文脈の中で実践していくことに困難さはあると感じているが、今後どのように広がっていくかにも興味がある。
- 教員研修などがしっかりなされるか、(金銭的な面も含め) 心配。持続可能な学校にするための取り組みが必要だと感じる。

③ IB 校ではなくても、IB 教育から貴校の教育の取り組みに取り入れてもよいと思われる点がありましたら、ご記入ください。

- 探求型の教育。
- Student-oriented learning.
- Inquiry into topics that are relevant to students & interest them.
- Examining the knowledge they're passively accepted as true.
- Ensuring that students grow into well-rounded humans, not just educated ones.
- 学習パラダイムの転換に良い。
- 探求することは大切なことだと思います。
- IB 校になる。
- MYP コーディネーターが、コーディネーター職に専念できる仕組みなどを整備すべき。
- 具体的なスキルを目標にして指導をすること (知識よりも)。知識も重要だけど、自習のときに簡単に手に入れられます。
- 日本の教育に入れるには TOK が一番であると思うが、それだけが IB 教育かというところでもない気がする。
- Student-Centered, Inquiry, PBL など、とにかく画一的、知識詰め込み型ではないスタイルを取り入れていくのが良いと思っています。
- 主体的＝探求・対話的＝協働力・深い学び＝概念理解だと考えています。
- 国際的視点, diversity の受け入れ方, この思考方法のトレーニングは今後の教育で必要だと思います。
- 勤務校は IB 校ですが、やはり TOK, EE そして部活動には CAS を取り入れると良いと思います。
- TOK 等。

問 9. その他、本日のシンポジウムに関してご意見・ご感想等、自由にご記入ください。

- パネルディスカッションにおいてパネリストの話ばかりではなく、もっとフロアにも Q&A のチャンスを与えてほしかった。
- 国際的なゲスト教授がいらしたので貴重な機会となった。
- Is it possible to have speakers who are from other countries, such as the South / Southeast Asia region? I'd love to hear how they overcame problems when local practice conflicted with IB standards or requirements.
- 有意義でした。

- IB の視点を広く普及させることに興味があるので勉強になった。現場の問題を解決しながらより多くの生徒に IB の恩恵を享受してもらえるような教師を目指して勉強を続けたいと強く思った。
- Sara 先生の“success”をどう定義するかの話が印象的だった。自分オリジナルの成功を日本の大人も持てるようにならないと、本当の意味で IB 教育は日本に普及しないように思う。
- フロリダとシカゴのお話の両方に通じることですが、どのように IB を導入するか（どう日本に導入するか）は考えなければいけないことだと思いました。
- 大変良い企画でした。ありがとうございました。
- アメリカの公立の実態を聞けて良かった。
- 先生方から貴重なお話を伺いました。ありがとうございます。
- とても勉強になりました。今日の学びを自分の知見として論文に生かしていきたいです。
- 無料だったので、学生の私でも勉強させていただくことができ、大変嬉しく思っています。ありがとうございました。
- 参考になりました。理想論的に受け取らないようにがんばります。
- 文科省の方は来ているか分からないが、毎回来るべきだと思います。話す方として入ってもほしいのですが、聞き手としても入ってほしいです。
- とても勉強になりました。ありがとうございました。
- IB ビギナーでした。どんなレッスン・クラスをしているのか具体的なことを知りたいと思いました。暗記・テストで高得点を取る大学入試目的のような教育現状が変わるようにしてほしいと思いました。探究心をつける！とても共感しました。
- 岡山大学の G コースの授業でこの度のシンポジウムに参加したが、非常に有意義だった。私自身 IB についてよく知らなかったが、日本の教育界において新しい注目されている動きだということを知ることができた。
- 忌憚のない話が伺えて楽しく聴講させていただきました。
- とても勉強になりました。
- みなさんの率直な意見が素晴らしかった。
- とても有意義なシンポジウムでした。
- 大学、高校の研究者だけでなく一般にも門戸を開いたシンポジウムを開催してくださり感謝いたします。IB 教育といえば富裕層のためのもの、手が届かないものとのイメージがありましたが、シカゴでは市をあげて公立校で導入され大きな効果をあげているお話、日本でも同じように公立校での学びに IB を採択することが検討されていることが分かり期待しています。会場の先生方の和やかな雰囲気！日本の教育が前進していくことを予感・実感しました。ダグラス先生の生い立ち、アイデンティティと教育を研究される IB に関わられるようになった経緯のお話がとても興味深かったです。
- IB とは直接関係ないのですが、岡大 HP の留学に関するページの説明が大変分かりやすいとの声があります。筑波大生で留学準備をしていた学生さんのお母さんから岡山に行くなら伝えてほしいと言われました。留学に関わる色々な手続きについて分かりやすくまとめてあり大変助けになったそうです。岡大は国際教育に力を入れておられるのだと思います！
- ありがとうございました。

- アメリカと日本で、プロセスと結果に対するとらえ方や期待が違うのだなということがよく分かりました。プロセスが大切なのは理想として日本の先生も生徒も分かっているけど、希望する大学に入れるか入れないかというのがとても大きなハードルだと思います。
- 結局お金かと思った。
- 本日は参加できて良かったです。先生方をはじめ運営の皆様もありがとうございました。

問 10. 今後どのようなシンポジウムやワークショップがあったら参加したいと思われますか。

- IB の方法などを一般の公立校に取り入れた実践の紹介や大学入試での活用についてなど。
- I would love to have more teacher-oriented workshops and job-alikes! If there was also a symposium about resources & support for the IB programs in the area, both from the private & public sector, than I would also be happy.
- IB ワークショップを開催していただけるのなら参加したい。
- IB 教育や essence を生かせるような大学教員の Professional Development。
- 学生とのやり取りもあるようなものと良いなと思いました。
- アメリカ以外の（もちろんアメリカもとても興味深いですが）外国でも公立の IB はあると思います。そうした状況を知ることができれば嬉しいです。
- 公立の実施校の発表。
- もっと交流をする場が増えると情報交換できるかと思いました。
- 日本の大学入学 system, 日本の学習指導要領の枠・日本の教員労働環境・教育基本法などの日本の現状の中で、多くの課題から何をどう解決することで IB 理念に添った教育ができるかを本音で語り、本気で解決策を考え、実現に向かう動きが作れるもの。米国と日本では base があまりに異なるので、ヒントはたくさん得られますが実現の道は明確にならないので。
- IB 教職者へ向けたワークショップ, IB 教育体験ワークショップがあればぜひ参加したいです。
- 9 月 9 日にあるワークショップに参加したかったのですが…また頻繁にやってください！！
- IB についての研究論文（世界、日本の両方）
- DP を取って大学へ進学した生徒の 3 年後の様子、つまり大学でどう成功しているかということの調査など、IB の成果に関するシンポジウムがあれば非常に興味深いと思います。
- IB 修了生のその後を知る機会があると良いなと思います。IB 終了生は大学で何を学びたいと思います、その後どのように生きていきたいと思っているのでしょうか。
- 教科別のワークショップで具体的な授業例を見てみたい。

海外及び国内 IB 校への広報実績（平成 30 年度）

➤ IB 校訪問調査実施学校数 国内 18 校

○ 国内 IB 校訪問先一覧

日付	県・市区	学校名
平成 30 年 6 月 9 日(土)	広島県	英数学館高等学校
6 月 22 日(金)	京都府	立命館宇治中学校・高等学校
9 月 13 日(木)	兵庫県	カナディアンアカデミー（カレッジフェア） 対応校：カナディアンアカデミー，マリストブラザーズインターナショナルスクール，関西学院千里国際高等部，立命館宇治中学校・高等学校
9 月 14 日(金)	東京都	広尾学園（カレッジフェア） 対応校：広尾学園，ぐんま国際アカデミー，加藤学園 暁秀高等学校，ニューインターナショナルスクールジャパン，沖縄クリスチヤンスクールインターナショナル，立命館宇治中学校・高等学校，清泉インターナショナルスクール，セントメリーズ・インターナショナルスクール，つくばインターナショナルスクール，UWC ISAK Japan，横浜インターナショナルスクール
10 月 19 日(金)	東京都	玉川学園中・高等部
11 月 14 日(水)	神奈川県	サン・モール・インターナショナルスクール（カレッジフェア） 対応校：サン・モール・インターナショナルスクール，加藤学園暁秀高等学校，法政大学国際高等学校，ニューインターナショナルスクールジャパン，ホライゾン・ジャパン・インターナショナルスクール，東京都立国際高等学校
11 月 15 日(木)	長野県	インターナショナルスクール・オブ・アジア・軽井沢
12 月 10 日(月)	広島県	AICJ 中学・高等学校
12 月 11 日(火)	広島県	広島インターナショナルスクール
平成 31 年 1 月 10 日(木)	静岡県	加藤学園暁秀高等学校
1 月 23 日(水)	愛知県	名古屋国際高等学校
1 月 29 日(火)	福岡県	福岡インターナショナルスクール
1 月 30 日(水)	福岡県	リンデンホールスクール中高等部
2 月 12 日(火)	茨城県	茗溪学園中学校高等学校
2 月 13 日(水)	茨城県	つくばインターナショナルスクール
3 月 6 日(水)	宮城県	仙台育英学園
3 月 12 日(火)	沖縄県	沖縄クリスチヤンスクールインターナショナル（カレッジフェア）
3 月 18 日(月)	兵庫県	カナディアンアカデミー
3 月 21 日(木)	東京都	K インターナショナルスクール

●2018年度国内旧校訪問

2018年度 日程	学校名	時間	対象	担当教員	配布物・送付物	内容
6 9 土	英数学館高等学校	8:30～13:30	生徒、保護者、高校教諭	佐竹	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒、保護者および高校教諭を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
6 22 金	立命館宇治中学校・高等学校	16:15～18:15	Gr11・Gr13生、保護者	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒6名・保護者6名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
9 13 木	カザディアンアカデミー (Kansai Regional Western Japan University Fair)	15:30～18:00	Gr9～Gr12生	上田	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	参加大学数84校、参加高校数7校、参加高校生21校、参加IB入試説明資料、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
9 14 金	広尾学園 (Kanto Plain College Fair)	12:00～16:30	生徒、高校教諭	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	参加大学数166校、参加高校生21校、参加IB入試説明資料、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
10 19 金	玉川学園	12:30～13:30	Gr10～Gr11生、高校教諭	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒27名・教員1名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
11 14 水	カモエ・インターナショナルスクール (横浜カレッジフェア)	14:00～18:00	生徒、高校教諭	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	参加大学数22校、参加高校生11校、参加IB入試説明資料、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
11 15 木	インターナショナルスクール	17:00～18:30	Gr12生、高校教諭	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒3名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
12 10 月	AICJ	15:45～17:30	Gr10～Gr11生、高校教諭	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒42名および教員2名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
12 11 火	広島インターナショナルスクール	15:30～16:30	Gr9以下～Gr12生	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒8名および教員1名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
1 10 木	加藤学園晴秀高等学校	15:30～16:50	Gr10～Gr13生、高校教諭	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒53名および教員2名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
1 23 水	名古屋国際高等学校	14:30～15:30	Gr9以下～12生、高校教諭	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒28名および教員3名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
1 29 火	福岡インターナショナルスクール	12:30～13:30	Gr12生	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒9名および教員1名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
1 30 水	リンデンホールスクール中・高学部	14:30～15:30	Gr9以下～11生、保護者	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒27名、保護者7名および教員3名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
2 12 火	茗溪学園高等学校	15:30～16:30	Gr9以下、保護者	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒8名、保護者2名および教員2名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
2 13 水	つくばインターナショナルスクール	8:00～11:00	Gr9以下、高校教諭	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒15名および教員1名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
3 6 水	仙台湾英学園高等学校	13:30～14:30	生徒	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	生徒45名および教員3名を対象に、岡山大学の概要及び、IB入試・GDPについて説明、アンケート調査の実施
3 11 月	2019 インターナショナルカレッジフェアin沖縄	未	生徒、保護者	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	未
3 13 水		未	生徒	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	未
3 18 月	カナディアンアカデミー	未	生徒	マハムド	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	未
3 21 木	Kインターナショナルスクールカレッジフェア	未	生徒	上田	大学案内、アウトライン、IB募集要項、IB入試説明資料、GDPパンフレット、アンケート（生徒・教諭）	未

IB校へのアンケート(日本)

期間：2018年6月～2019年2月

学校数：8

1. コース別の日本人生徒数を教えてください。

(ここで言う「日本人」とは、「日本語(第一言語)が母語の生徒さん」とお考えください。)

コース	11(10)年生・高1	11(12)年生・高2	最終学年・高3
full diploma	115	82	0
certificate course	3	13	0

2. IB certificateを履修しているのはどのような学生ですか。

回答
証明書コースなし
IB証明書コースは提供していません。
失敗した生徒だけが、IBDPの2年目に証明書を発行するように勧められています。
数学、科学に苦む学生
全体的なパフォーマンスが超過より低い学生
英語のレベルがより長い、またはより高い得点がIB Diplomaよりも重要である大学に適用したい学生
完全な卒業証書を学んで学んでいるのを見つけた学生
MYPの成績が低い学生(6～10年生)

3. IB diplomaスコアと学業成績は相関関係がありますか。

回答
はい。
ほとんどの場合、その通りです。
その通り。

4. HLとSLで学習される科目間に、学習時間以外の違いがありますか。

回答
はい。
勉強と専門性の深さ。
対象材料が異なります。
内容は一部の科目では異なる場合があります。
HLは、学生がより深くトピックに取り組むことを意味します。
各コースには、HLとSLについて異なる要件があります。
HLはSLよりもはるかに多くのコンテンツを持っています。

5. 生徒さんが進学する大学・学部を決められるおおよその時期を教えてください。

回答
10年生の秋に始めます。
G10の半ば(IBDP科目の選択用)
DPの初年度の夏の間
G10 G11
DP1(11年生)年の終わりまでに、彼らは選び始めています
11年生の1月・2月
Grade10～Grade11
12年生の12月(最終学年の第1学期末)

6. スクールカウンセラーや生徒は大学を見つけるためにどのような情報源を使っていますか？

回答
カレッジフェア、インターネット、ネットワークなど
ウェブサイト
アプリケーションガイドブック
卒業生
インターネット
さまざまなカレッジフェア/カレッジセッション

7. 生徒さんの大学選択について、どのようなことを指導していますか？

回答
彼らの興味/目標、財政状況。
必要条件
言語(英語プログラムまたは日本語)
評判、費用およびエントリー要件
研究分野、場所、アドミッションポリシー
学生が卒業証書を取得する可能性がある場所、および海外の大学の場合は家族の財政
場所、提供されるコース、IB Diplomaまたは証明書の受け入れ、その他のテストが必要、最低スコア
授業料
評判、提供される学位、場所、コスト

